

第2次

和泉市地域福祉活動計画

～地域の福祉の力
みんなで広げる 大きな輪～



平成21年3月



社会福祉
法 人

和泉市社会福祉協議会

ごあいさつ

21世紀の到来とともに少子高齢化が急速に進み、家族による介護や子育て機能の低下、近隣同士の付き合いの希薄化など地域環境も大きく変化してきました。また、社会福祉法により、社会福祉協議会が「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」とされるとともに、市町村地域福祉計画についても位置付けられています。この様な状況のもと、平成16年3月に、和泉市社会福祉協議会では和泉市の地域福祉計画の策定と共同歩調をとりながら、第1次の地域福祉活動計画を策定いたしました。



計画の策定後も毎年、住民懇談会（ワークショップ）や地域福祉シンポジウムを開催するなど、地域福祉活動計画の推進に努めて参りました。このため、地域福祉活動計画について地域の中で、一定の理解を得られつつあると考えております。

しかし、第1次和泉市地域福祉活動計画は5年間の計画であり、平成20年度には策定から5年目を迎え、新たな計画の策定が必要となってきました。また、介護保険法の改正や障害者自立支援法の制定、医療制度改革などのさまざまな制度改革があり、地域福祉を取り巻く環境もこの5年間で大きく変化してきていることから、これらの状況も踏まえた第2次和泉市社会福祉協議会地域福祉活動計画を策定いたしました。

前回同様、市民が主体となって様々な福祉問題を自分の問題として認識して頂くためにも、まず市民へのアンケート調査を実施すると共に、住民懇談会（ワークショップ）を開催し、地域での問題点を率直に話し合ってもらい、広くご意見を頂きました。

今後におきましても、「市民の皆様がいつまでも住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくり」の具体化を図るため、社会福祉協議会職員はもとより、市民の皆様と一丸になって、本計画の実現に向けて取り組んで参りたいと考えております。

最後になりましたが、本計画の策定にあたってご協力賜りました策定委員会の方々をはじめ、多くの関係者の皆様方に心から感謝しお礼を申し上げますとともに、今後一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年3月

社会福祉法人
和泉市社会福祉協議会
会長 辻村 一男

目 次

第1章 計画策定の基本的な考え方

1	計画策定の背景	1
(1)	地域福祉活動計画とは	1
(2)	社会福祉協議会とは	3
2	計画の位置づけ	4
(1)	計画の位置づけ	4
(2)	計画期間	4
3	計画の策定体制	5
4	計画の基本方向	8
(1)	基本的な視点	8
(2)	基本理念	10

第2章 地域福祉活動の現状と課題

1	和泉市の人口と世帯の特性	11
(1)	人口と世帯	11
(2)	小学校区別人口	12
2	和泉市社会福祉協議会の活動	15
(1)	校区社会福祉協議会活動	15
(2)	子育て支援（いずみファミリーサポートセンター）	17
(3)	和泉ボランティア市民プラザ アイ・あいロビー	18
(4)	その他の事業	18
3	地域づくり（地域福祉活動）の輪を広げる取り組み	20
(1)	ワークショップ開催事業	20
(2)	はじめようまちづくり（地域福祉活動）シンポジウム事業	21
(3)	地域福祉推進員関連事業	21
(4)	住民とともにつくる地域づくり事業	23

第3章 地域福祉力を高め、みんなで広げていくために

1	推進に向けた取り組み	25
(1)	だれもが安心して暮らせる住みやすい地域づくり事業の推進	27
(2)	地域での“いきいき”づくりを支える組織整備	29
(3)	地域福祉活動を進めるしくみづくり	31
(4)	地域福祉活動を支える安定した財源基盤の強化	32

第4章 小学校区別活動計画

■小学校区別活動計画の構成	33
1 国府校区	34
2 和気校区	36
3 伯太校区	38
4 池上校区	40
5 黒鳥校区	42
6 芦部校区	44
7 北池田校区	46
8 南池田校区	48
9 北松尾校区	50
10 南松尾校区	52
11 横山校区	54
12 南横山校区	56
13 幸校区	58
14 信太校区	60
15 鶴山台南校区	62
16 鶴山台北校区	64
17 緑ヶ丘校区	66
18 光明台南校区	68
19 光明台北校区	70
20 いぶき野校区	72
21 青葉はつが野校区	74

資料編 市民の福祉意識と計画の策定経過

1 市民の福祉意識～アンケート調査結果より～	77
2 計画の策定経過	83

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の背景

(1) 地域福祉活動計画とは

地域福祉活動計画とは、市民が中心となってそれぞれの地域で、身近な生活課題の解決に向けて福祉活動を進めるための計画です。

どうしたら解決できる？地域の福祉力を強化・活性化させよう！

ひとり暮らし高齢者の孤立死、介護放棄された高齢者の餓死、子育てノイローゼで母親が乳児虐待といった悲しいニュースを目にすることがあります。

これらの問題は行政で対応すべき部分もありますが、このような深刻な問題になる前に、市民相互の助け合い・支え合いで防止できることが沢山あります。

行政は市民全体に対して事業を行うので、市民一人ひとりに対して、必ずしもきめ細かいサービスを提供することができません。

例えば、子どもを安全にのびのび遊ばせる場所が近くにできないかという要望に対しても、市全域を見わたして計画的に公園を配置していくことはできますが、すべての市民にとって便利な場所に公園を整備することはできません。

しかし、ひとり暮らし高齢者などの安否確認や、足の不自由な高齢者のゴミ出しを手伝うなど、地域にある小さな困りごとを解決していくことができるのは地域なのです。

一方で、個人主義の考え方とともに、都市化や核家族化が進み、地域の結びつきや近隣との関係は希薄になりつつあります。地域で誰かが困っていても、助け合い・支え合いを行うことができないまちになっては困ります。孤立死は死亡が長い間近隣の人に知られないまま放置されるというところに問題があります。

地域福祉活動計画は地域の福祉力を強化・活性化させる計画

では、どうしたら地域の福祉力を強化・活性化することができるのでしょうか。

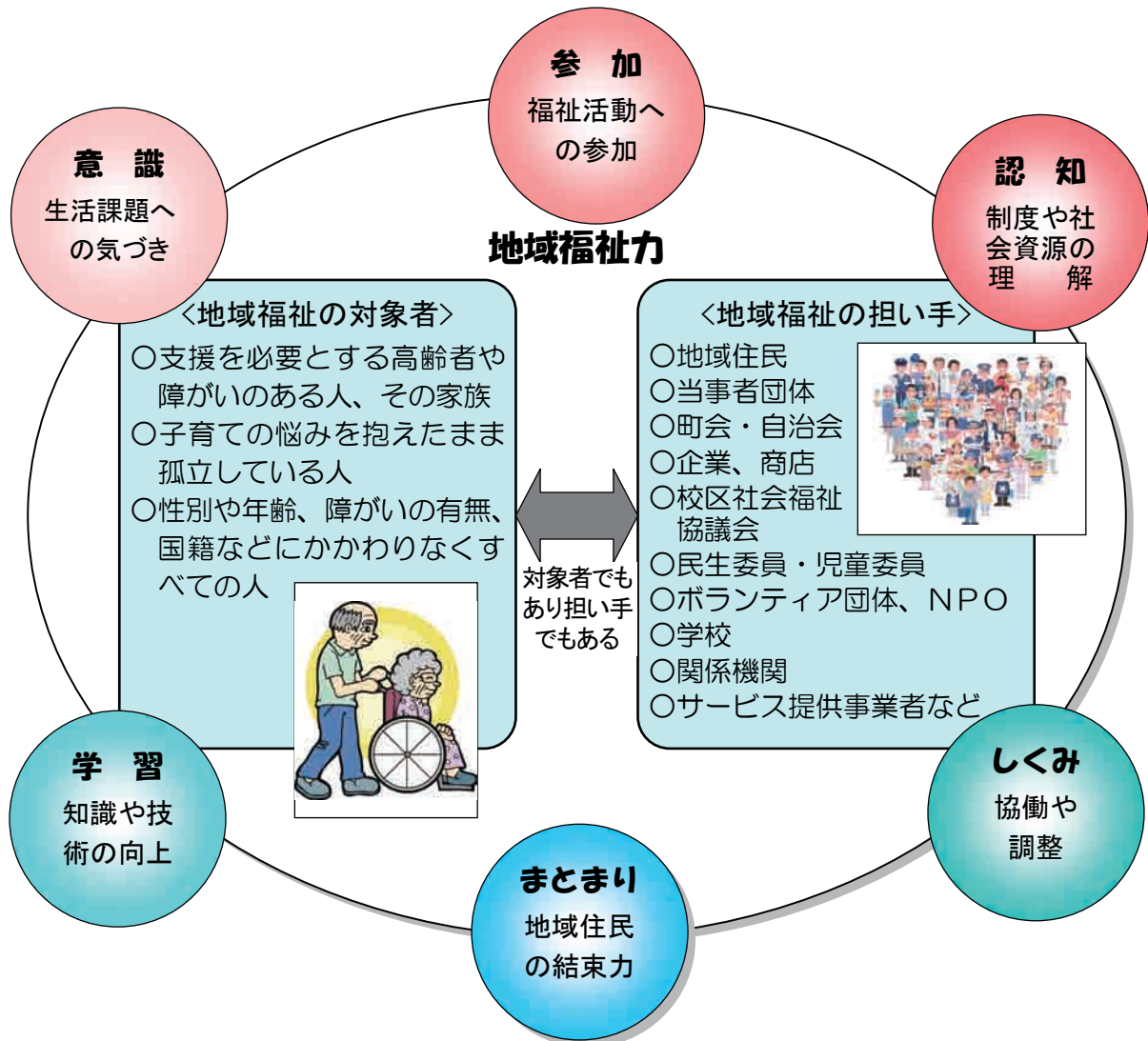
それにはまず、市民一人ひとりが「困っている人がいたら手助けしよう」「地域で支え合おう」という意識を持つこと、そして行動することが重要です。

地域には、校区社会福祉協議会のほかにもボランティアやNPOのメンバーとして、地域のために活動している人が沢山います。そして、その中には地域の援助を求め情報や助け合いの知恵などが蓄積されています。また、専門的な知識・技術を持つ福祉施設や事業所もあります。これらを活用しながら、地域の福祉力を強化・活性化させることが大切です。

地域福祉活動計画は、すでに活動している人たちやこれから活動したい人たちをつなげ、大きな地域の福祉力にし、地域の中の困りごとを解決していくための計画です。

和泉市社会福祉協議会は、この計画に基づいて市民や企業、行政、福祉施設及び事業所、大学等と連携して、地域の福祉力を活性化させていきたいと考えています。

■地域福祉力のイメージ



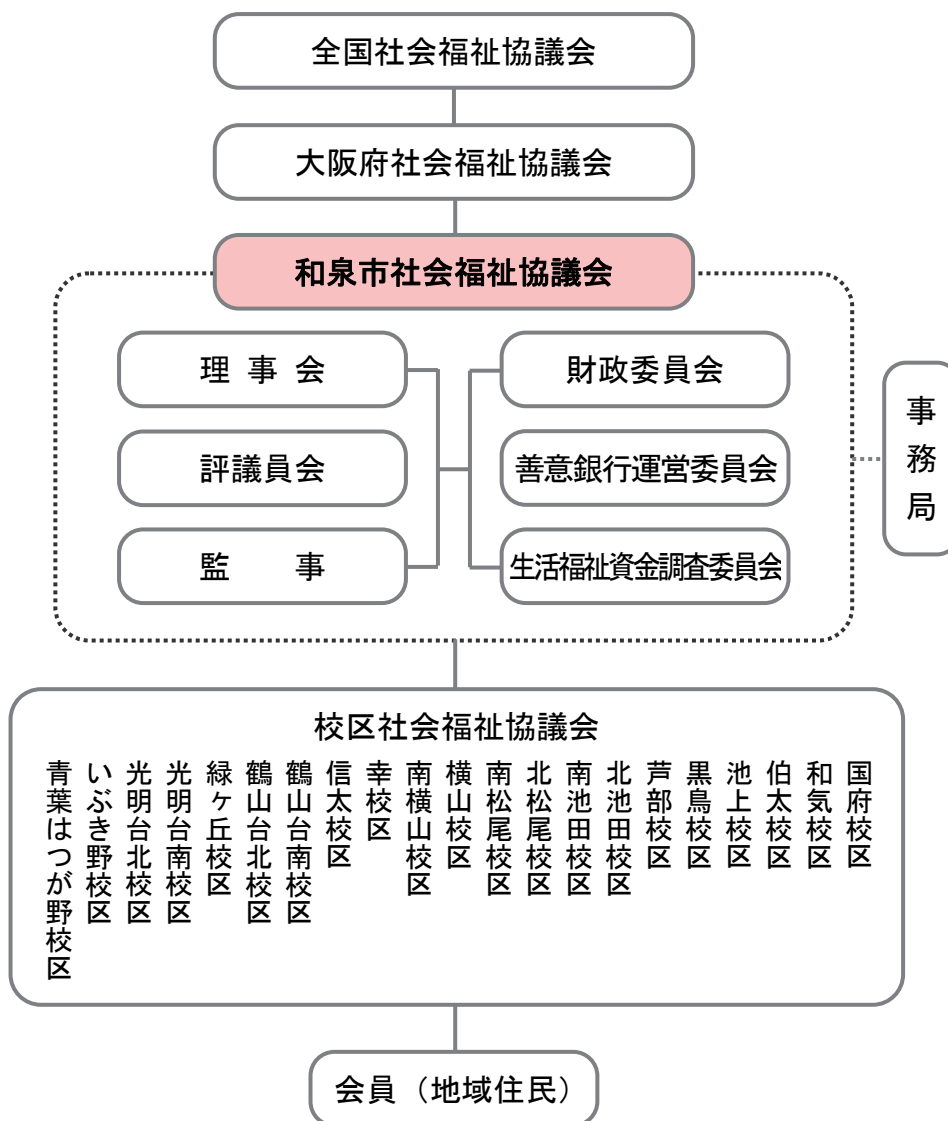
(2) 社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法第109条で「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と規定される、公共性・公益性の高い民間非営利団体です。

社会福祉協議会には、住民主体の理念に基づき、地域が抱えている福祉問題を地域全体の問題としてとらえ、みんなで考え、話し合い、福祉課題の解決に向けて取り組むという活動を通して、福祉コミュニティづくりと地域福祉を推進することが期待されています。

その組織は、自治体や町会・自治会等を通して住民から会員を募り、地域の福祉関係者やさまざまな住民組織の代表者を役員にして活動が展開され、財源は会員から集めた会費、赤い羽根共同募金の配分金、行政からの補助金や事業委託金などで成り立っています。

■和泉市社会福祉協議会の組織

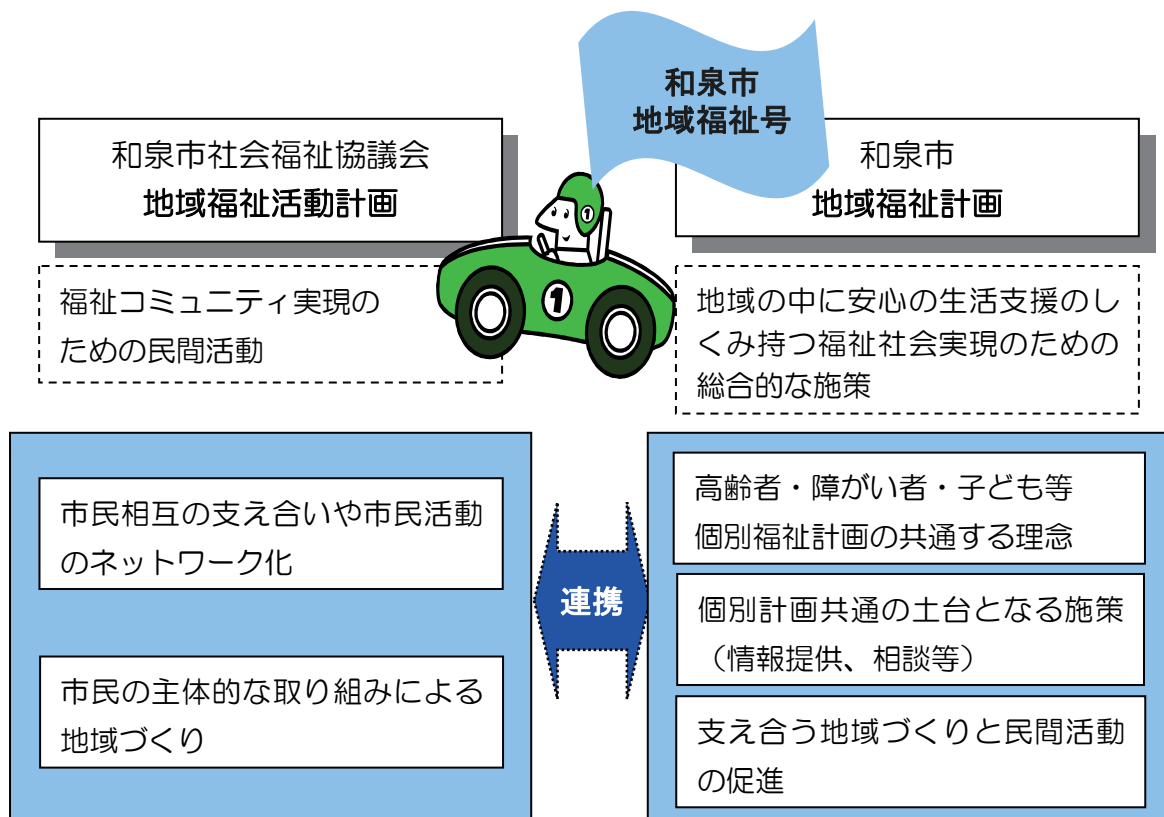


2 計画の位置づけ

(1) 計画の位置づけ

地域福祉活動計画自体は法的に定められたものではありませんが、「第2次和泉市地域福祉計画」とは車の両輪の関係にあるものであり、地域の中に安心の生活支援のしくみを持つ福祉社会実現のための総合的な施策を示す「第2次和泉市地域福祉計画」との連携のもとに、福祉コミュニティを実現するための民間活動を推進していきます。

■地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係



(2) 計画期間

この計画の期間は、平成21年度から平成25年度までの5年間とします。
なお、同時策定の「第2次和泉市地域福祉計画」との整合性を図ります。

3 計画の策定体制

「第2次和泉市地域福祉活動計画」の策定にあたっては、行政と連絡調整を図り、「第2次和泉市地域福祉計画」の策定スケジュールや進捗状況を確認し、相互に協力しながら策定しました。

また、地域福祉は「住民参加」が不可欠な要素として重視され、計画づくりを地域住民の参加によって進めていくこと、つまり、計画づくりの過程そのものが地域福祉力を高めていくことにもつながります。

計画策定にあたっての住民参加としては、以下のようなことを行いました。

① 市民及び福祉関係者アンケート調査

計画策定のための基礎資料として活用することを目的に、市民を対象に、地域福祉推進についての評価や地域福祉に対する考え方、活動状況等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

■市民アンケート調査の概要

項目	内容
調査地域	和泉市全域
調査対象	和泉市在住の18歳以上80歳未満の男女
調査数	1,000件
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録から、市内の小中学校別人口分布を考慮し、無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成19年11月10日（土）～11月22日（木）
配布・回収状況	配布数：1,000件 未着数：7件 有効回収数：367件 有効回収率：37.0%

また、福祉関係者を対象に、地域福祉推進についての評価を把握するため、アンケート調査を実施しました。

■福祉関係者アンケート調査の概要

項目	内容
調査地域	和泉市全域
調査対象	和泉市在住の18歳以上80歳未満の福祉関係者個人及び、市内に事業所のある福祉事業者や福祉関係施設従事者
調査数	各小中学校区おおむね100とし、合計2,031件
抽出方法	校区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、町会長、いきいきサロンや子育てサロン、高齢者関係のサービス事業所、CSW、保育所・幼稚園、障がい者相談窓口等の従事者
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成19年12月10日（月）～12月25日（火）
配布・回収状況	配布数：2,031件 無効票：3件 有効回収数：1,171件 有効回収率：57.7%

② 校区社会福祉協議会懇談会（ワークショップ）の開催

ワークショップは、小学校区を基礎とした本計画策定における住民参加組織と位置づけています。

ワークショップは、和泉市内の小学校区を5つのブロック分けて、ブロックごとに2回開催しました。

1回目は各小学校区における地域福祉の取り組み状況と地域福祉を推進するうえでの課題や問題点を話し合っただき、2回目では、それを踏まえたまちづくり目標、各課題の解決に向けての取り組みについて意見交換していただきました。

■校区社会福祉協議会懇談会（ワークショップ）の開催状況

開催日時	対象小学校区	開催場所	
第一回	平成20年 9月12日	池上・幸・信太・鶴山台南・鶴山台北	人権文化センター
	9月17日	和気・黒鳥・芦部・伯太	和泉市コミュニティセンター
	9月24日	緑ヶ丘・光明台北・光明台南・青葉はつが野	和泉シティプラザ
	9月26日	南松尾・横山・南横山	南部リージョンセンター
	10月1日	国府	和泉市コミュニティセンター
	10月16日	北池田・北松尾・南池田・いぶき野	和泉シティプラザ
第二回	10月27日	国府・和気・黒鳥・芦部・伯太	和泉市コミュニティセンター
	10月31日	南松尾・横山・南横山	南部リージョンセンター
	11月4日	池上・幸・信太・鶴山台南・鶴山台北	人権文化センター
	11月5日	北池田・北松尾・南池田・いぶき野	和泉シティプラザ
	11月12日	緑ヶ丘・光明台北・光明台南・青葉はつが野	和泉シティプラザ

③ 福祉関係者懇談会（ワークショップ）の開催

地域福祉を担う組織・団体等の担当者によるワークショップでは、地域福祉活動の推進状況を踏まえ、地域福祉活動を進めるうえでの課題や問題点について話し合いました。

■福祉関係者懇談会（ワークショップ）の開催状況

開催日時	職 種	開催場所
平成20年 9月2日	CSW、事務所職員、各相談員、NPO、ケースワーカー、保育士、社協・市職員	和泉市コミュニティセンター 1F 中会議室
平成20年 11月14日	CSW、事務所職員、各相談員、NPO、ケースワーカー、保育士、社協・市職員	和泉市コミュニティセンター 1F 大会議室

④ 市民シンポジウムの開催

平成19年度及び20年度の活動結果を市民に対して広く発表するため、各年度それぞれ次のようなシンポジウムを開催しました。

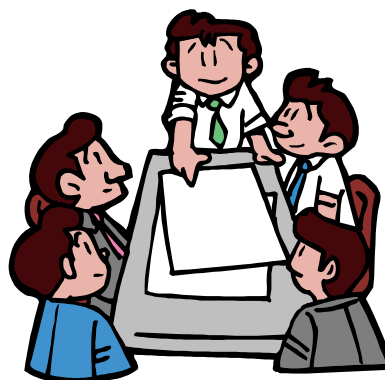
■シンポジウムの開催状況

開催日時	内 容	開催場所
平成20年 2月22日	① 地域福祉に関する福祉関係者アンケートについて ② 地域福祉推進員活動報告 ③ 住民とともにつくる地域づくり事業報告	和泉市コミュニティセンター 3F多目的ホール
平成21年 2月10日	① 第2次和泉市地域福祉計画並びに第2次和泉市地域福祉活動計画について ② いぎいきネット相談支援センター活動報告 ③ 災害ボランティアセンター検討会より	和泉市コミュニティセンター 3F多目的ホール

⑤ 和泉市地域福祉活動計画策定委員会

和泉市地域福祉活動計画策定委員会は、和泉市地域福祉活動計画の基本方針及び基本目標に基づき、実践に結びつける施策を検討します。

メンバーは学識経験者、社会福祉を目的とする団体及び事業者の代表、保健・医療・福祉施設等の関係者、公募市民、市行政の関係各課職員で構成されております。



4 計画の基本方向

(1) 基本的な視点

この計画の策定にあたっては、次の5つを基本的な視点としました。

① 第1次計画の継承

第1次計画の取り組みでは、和泉市社会福祉協議会は、校区社協の自主的な地域福祉活動を支援し、地域の福祉力の向上に取り組んできました。

その結果、いきいきサロンは平成15年の97か所から平成20年には123か所となり、約1.3倍に増加しています。また、校区社協ボランティア登録者数は平成15年の826人から平成19年には984人となり、約1.2倍に増加しています。

平成19年11月に実施した「地域福祉に関する一般市民アンケート調査」の結果から、小地域ネットワーク活動への参加意向をみると、「ぜひ参加したい」が3.0%、「できれば参加したい」が39.5%で、両者をあわせた“参加したい”人は40%強を占めています。前回調査では、選択肢で「できれば参加したい」がないが、「ぜひ参加したい」が39.4%を占めており、若干ですが“参加したい”人の割合が増えています。

これらのことから、第1次計画の効果が着実に現れていると考えます。

そこで第2次計画では、第1次計画での取り組みを継承するとともに、さらに多くの市民が、地域福祉活動に参加できるしくみづくりを進めていきます。

② 地域における人と人とのつながりの強化

地域における人と人とのつながりが希薄化するなかで、地域で人と人とのつながりを持ちたくても持てない人が増えています。

平成19年11月に実施した「地域福祉に関する一般市民アンケート調査」の結果から、地域の行事や活動等への参加状況についてみると、「参加したことがある」は59.7%で、前回調査に比べて21.5ポイントも減少しています。また、福祉に対する関心は、「とても関心がある」が25.6%、「ある程度関心がある」が53.4%で、両者を合わせた“関心がある”人は、およそ80%に達しますが、前回調査に比べて11.1ポイントも減少しています。

このように地域における人と人とのつながりに対して無関心な人の割合が増えてきています。

そこで、地域における人と人とのつながりをさらに強化し、地域にある福祉課題を、住民の協力を得て解決するという、本来めざしていた地域福祉活動が展開できるよう支援していきます。

③ 社会福祉の変化への対応

第1次活動計画策定後、介護保険法の改正や障害者自立支援法の制定、医療制度改革などのさまざまな制度改革がありました。

また、和泉市においても「第4次和泉市総合計画」の策定や「(仮称)和泉市自治基本条例」の制定に向けた取り組みを進めるなど、地域福祉を取り巻く社会状況に変化が生じています。これらの社会福祉の変化に対応した取り組みを、市と連携して適切に計画に位置づけ、反映し、推進していきます。

④ 地域の実情に合った取り組みの推進

地域における課題や困りごとは地域により異なり、地域の実情に応じたさまざまな工夫により解決されるべきものです。

そこで、各小学校区の自主的な地域福祉活動を支援し、各小学校区の実情に合った取り組みを計画に位置づけていきます。

⑤ 地域福祉の対象はすべての市民

地域で生活しているすべての市民が地域福祉の対象であり、特に制度の狭間にある人、支援を必要とする人も含めた支援を進めていきます。



(2) 基本理念

第1次計画においては、計画を進めるうえでの基本的考え方について、市民と共有し協働で進めるため、共通のキャッチフレーズとして次のように設定しました。

まちづくり みんなで広げる 大きな輪



計画の見直しにあたり、「第2次地域福祉活動計画」を推進するため尊重すべき基本理念について、基本的に第1次計画を踏襲するものの、みんなで広げる大きな輪を具体的にわかりやすく「地域の福祉の力」として、次のように設定します。

地域の福祉の力 みんなで広げる 大きな輪

この意味は、地域で暮らす人びとが、互いに支え、支えられる地域福祉の担い手であり、受け手であることを理解し、認め合うことによって、人と人との支え合いや助け合いなどの共助を育ていけるような、人と人との結びつきの輪づくりをめざします。

また、市民一人ひとりの知識や技術、経験等を生かして支え合い、助け合えることができる、心豊かで活力のある地域づくりをめざします。



第2章 地域福祉活動の現状と課題

1 和泉市の人口と世帯の特性

(1) 人口と世帯

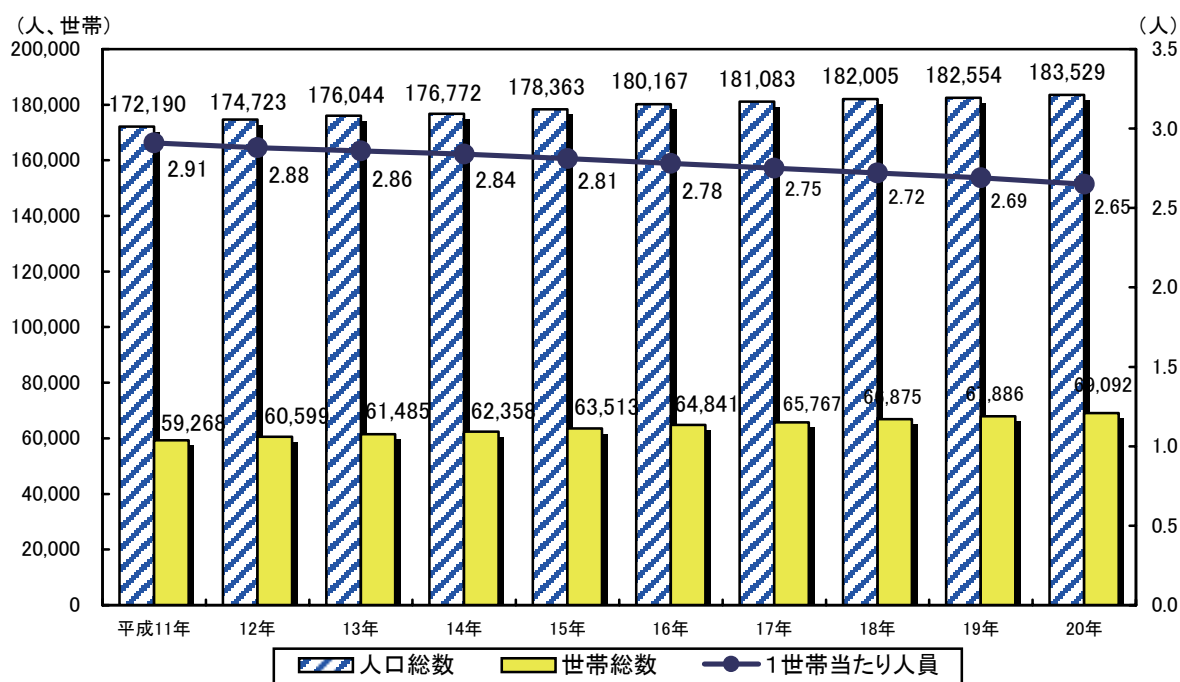
① 人口

和泉市の総人口は、平成16年に180,000人を超え、平成20年には183,529人となり、大阪府内でも有数の増加傾向を示しています。なお、本市の人口は大阪府人口の約2%を占め、33市中12番目の人口規模となっています。

② 世帯数

世帯数は、平成12年に60,000世帯を超え、平成20年には69,092世帯と人口と共に増加傾向を示しています。また、核家族化も進み、平成20年には1世帯あたり人員（平均世帯人員）は2.66人となっています。しかし、大阪府平均の2.35人より多くなっています。

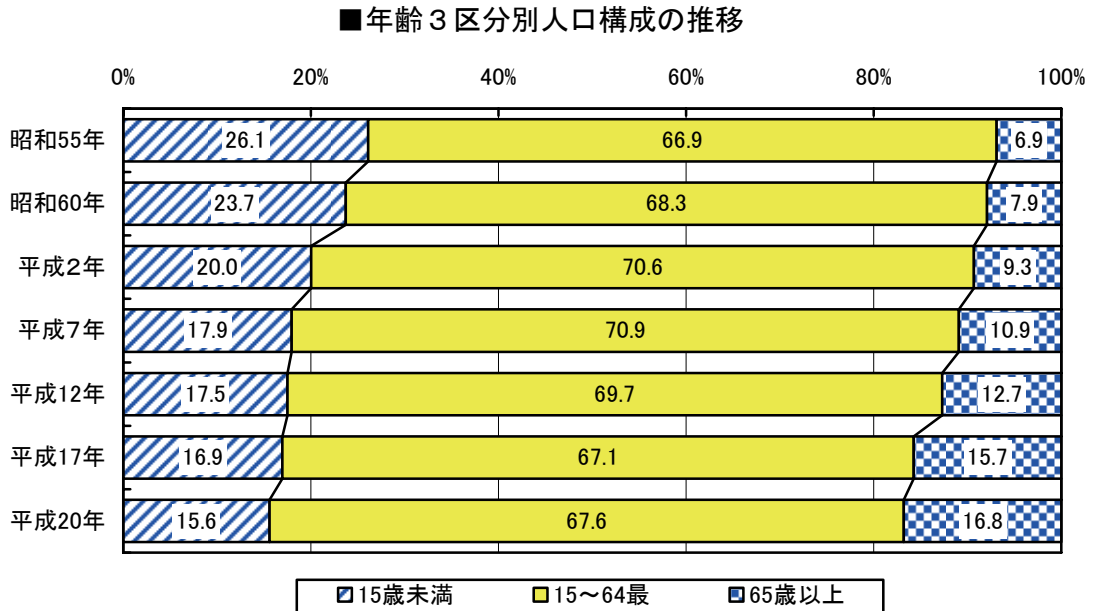
■人口・世帯数の推移



資料:住民基本台帳人口(各年3月末現在)

③ 年齢3区分別人口の推移

平成20年3月末現在の15歳未満の年少人口の割合は15.6%、65歳以上の高齢者の割合は16.8%で、高齢者の割合は年少人口の割合を1.2ポイント上回っています。



資料：平成17年までは国勢調査。平成20年は住民基本台帳（3月末現在）

(2) 小学校区別人口

① 小学校区別総人口

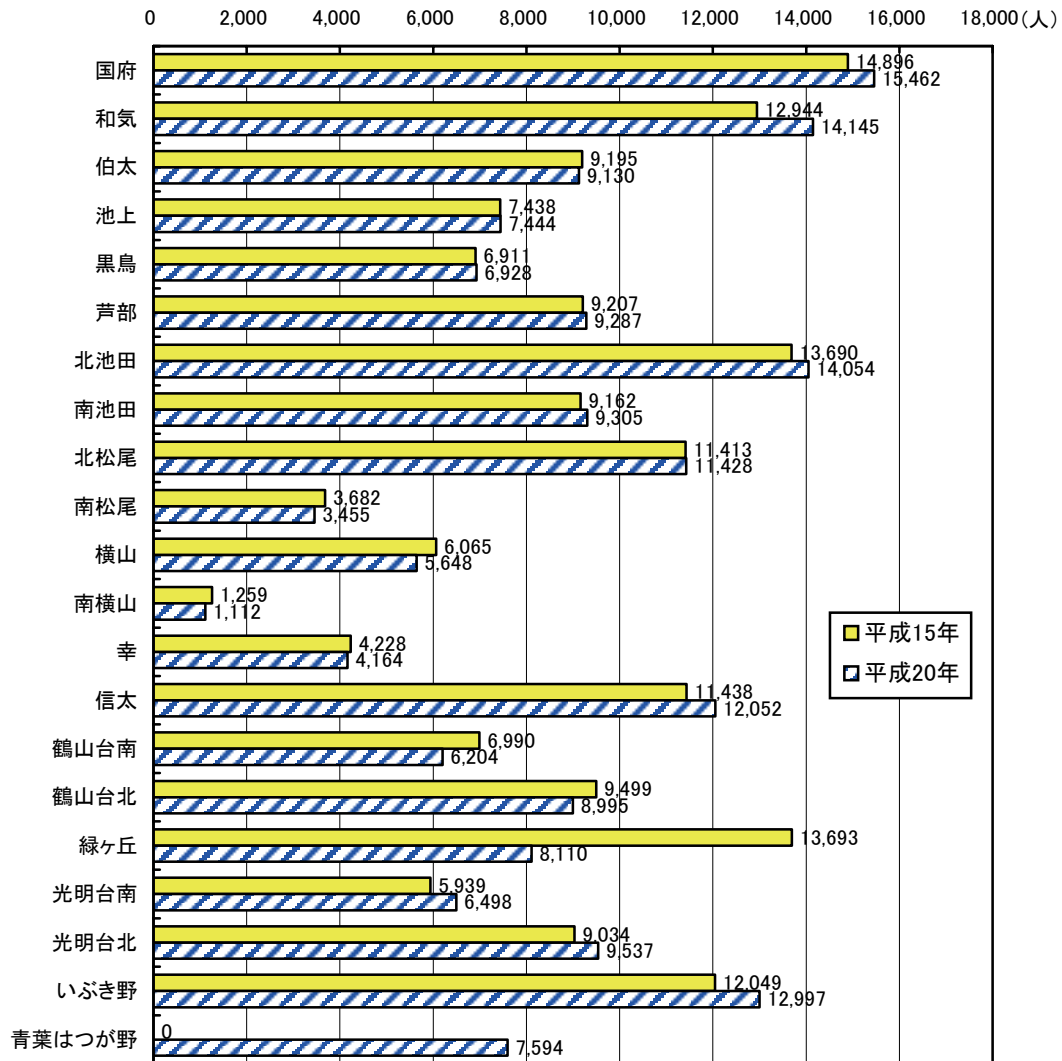
小学校区別総人口は、国府が15,462人で最も多く、次いで和気14,145人、北池田14,054人、いぶき野12,997人、信太12,052人と、鉄道沿線の校区が続いています。

一方、最も少ないのは南横山の1,112人で、次いで南松尾3,435人、幸4,164人、横山5,648人と続いています。

5年前（平成15年）と比較すると、平成18年度に青葉はつが野小学校が開校し、新しい校区が誕生しましたが、この校区を除くと光明台南の増加率が9.4%で最も大きく、次いで和気9.3%、いぶき野7.9%、光明台北5.6%、信太5.4%、国府3.8%と市平均（2.7%）を超えた増加率を示しています。

一方、青葉はつが野を分けた緑ヶ丘の40.8%減少を除くと、南横山の11.7%が最も大きい減少で、次いで鶴山台南11.2%、横山6.9%、南松尾6.7%、鶴山台北5.3%の順で高い減少率を示しています。

■小学校区別人口の推移



資料:住民基本台帳(各年5月1日現在)

② 小学校区別年齢3区分別人口の推移

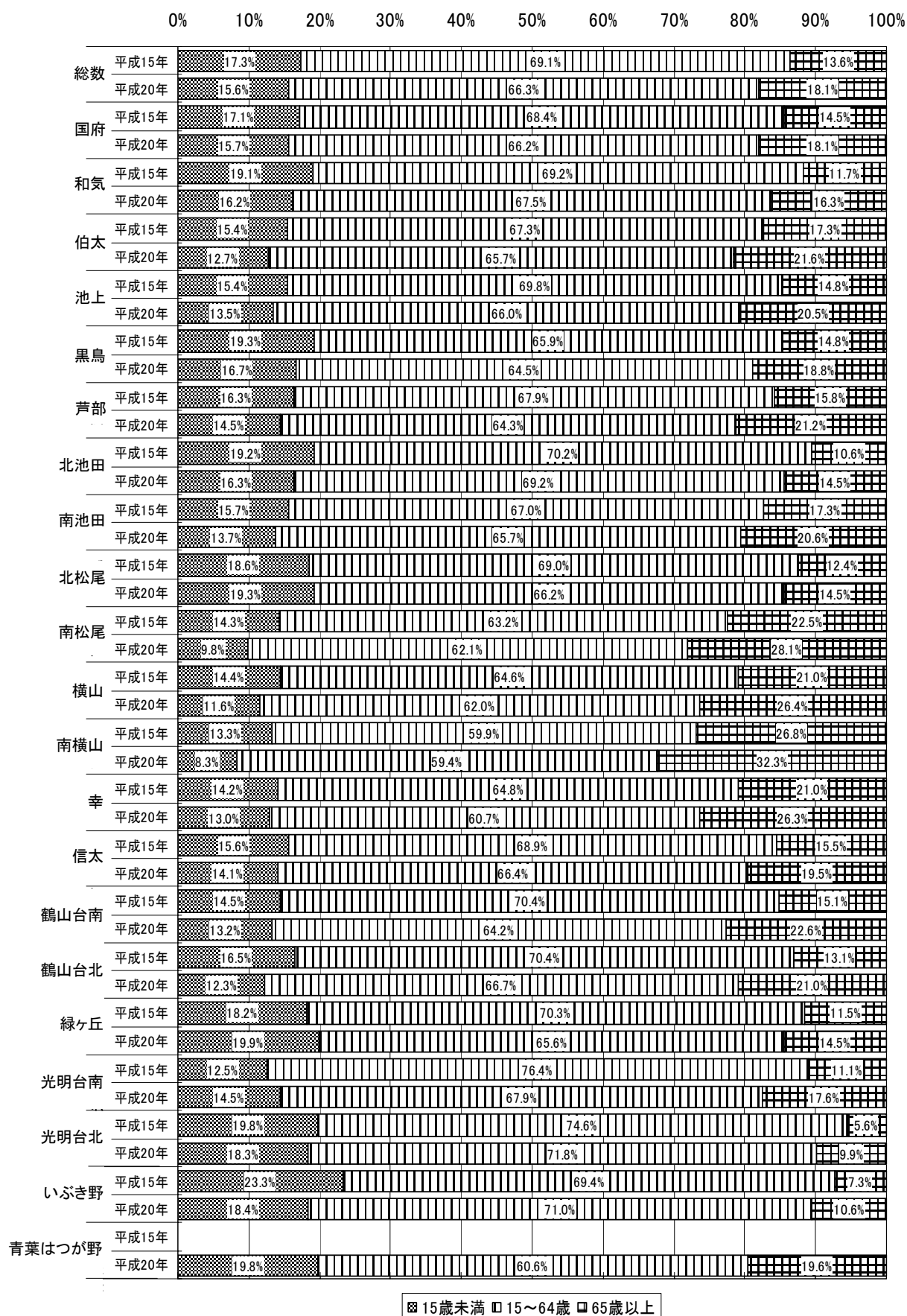
15歳未満人口は、平成15年には20校区のうち13校区で65歳以上人口を上回っていましたが、平成20年には21校区のうち6校区のみとなっています。

高齢化率をみると、南横山が32.3%で最も高く、次いで南松尾28.1%、横山26.4%、幸26.3%、鶴山台南22.6%と続いています。

一方、最も低いのは、光明台北の9.9%で、次いでいぶき野10.6%、緑ヶ丘・北松尾・北池田の3校区が14.5%となっています。

平成15年と比較すると、市全体の高齢化率は4.5ポイントの増加となっていますが、鶴山台北(7.9ポイント)、鶴山台南(7.5ポイント)、光明台南(6.5ポイント)では急激な高齢化が進んでいます。しかし、高齢化率が高い北松尾や緑ヶ丘では、それぞれ2.1ポイント、3.0ポイントと緩やかな増加となっています。

■小学校区別年齢3区分別人口構成の推移



■ 15歳未満 □ 15~64歳 ▨ 65歳以上

資料：住民基本台帳人口

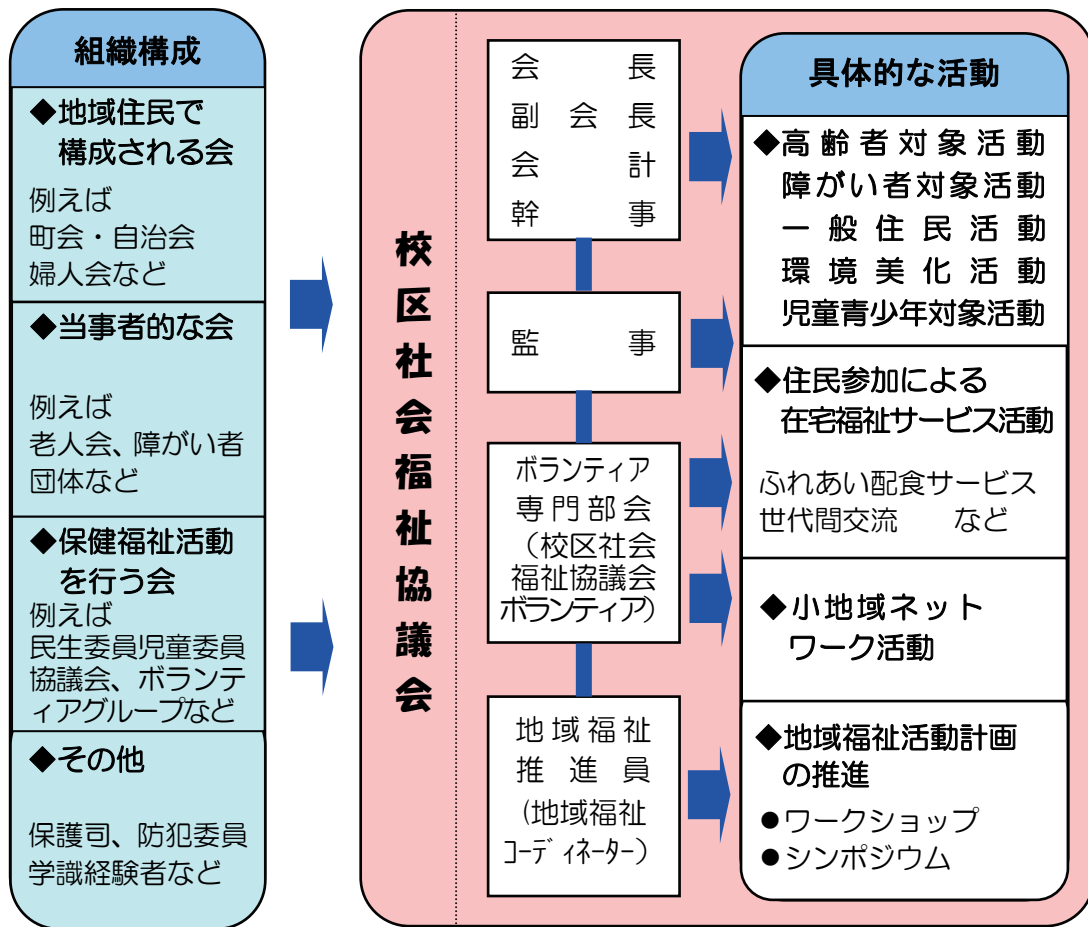
2 和泉市社会福祉協議会の活動

和泉市社会福祉協議会では、地域福祉活動や小地域ネットワーク活動等の校区社会福祉協議会活動、福祉サービス利用支援、心配ごと相談、ボランティアの推進、広報活動、生活福祉資金貸付、各種団体事務など、さまざまな事業を行っています。

(1) 校区社会福祉協議会活動

和泉市社会福祉協議会では、小学校区を中心に「共に支えあう福祉のまちづくり」をめざして、町会・自治会、民生委員・児童委員、ボランティア、婦人会、老人クラブなど地域にある各種団体の参加と協力によりつくられる校区社会福祉協議会を結成し、この校区社会福祉協議会が展開するさまざまな地域福祉活動を支援しています。校区社会福祉協議会は、現在、全21小学校区で結成されています。

■校区社会福祉協議会組織図



この校区社会福祉協議会では、以下のような活動が実施されています。

① 小地域ネットワーク活動

●個別援助活動

ご近所さん同士の見守り、支え合い活動です。声かけ訪問や緊急時の連絡・情報提供、ちょっとした助け合い等にネットワークを組んで実施しています（見守り、声かけ、手伝いなど）。

●グループ援助活動

町会・自治会館や集会所等で、ボランティアが参加者とともにレクリエーションや健康体操、おしゃべり等を通して交流し、地域のむすびつきを育み、助け合い・支え合う地域づくりの支援を行っています（いきいきサロン、子育てサロン、会食会など）。

② 在宅福祉活動

●ひとり暮らし高齢者等誕生日プレゼント訪問

65歳以上で寝たきりの状態にある人や80歳以上でひとり暮らしの人を対象に、社会的孤立の解消を図るため、校区社会福祉協議会ボランティアが誕生日にお祝い訪問をしています。

●電話訪問

77歳以上のひとり暮らしの人を対象に、月1回、校区社会福祉協議会ボランティアの協力を得て、安否確認を目的として電話訪問を実施しています。

●ひとり暮らし老人の会

校区社会福祉協議会ボランティアが協力して、ひとり暮らし高齢者の孤独感の解消と仲間づくりを目的に、65歳以上のひとり暮らしの人が自主的に運営しています。

●ふとん丸洗い乾燥サービス

65歳以上で寝たきりの状態にある人が、少しでも快適に暮らしていただくために、ふとん丸洗い乾燥サービスを実施しています。

●ふれあい配食サービス

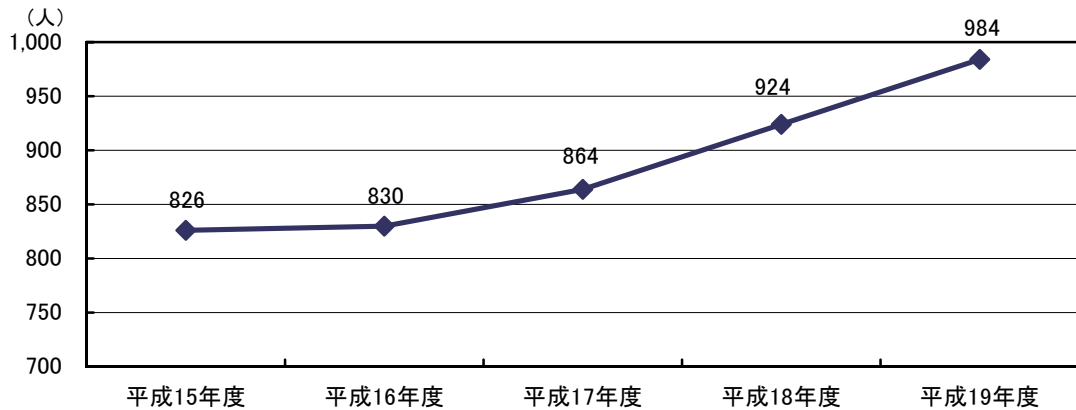
70歳以上のひとり暮らしの世帯、障がい者のみの世帯、障がい者と70歳以上の人のみの世帯を対象に、校区社会福祉協議会ボランティアが安否確認をかねて、月2回、栄養バランスのとれた弁当をお昼に届けています。

●おせち料理配食サービス

80歳以上のひとり暮らし世帯、障がい者のみの世帯、障がい者と80歳以上の人のみの世帯の希望者に、おせち料理配食サービスを実施しています。

なお、校区社会福祉協議会が行っている個別援助活動、グループ援助活動、在宅福祉活動を支援する校区社会福祉協議会ボランティアの登録者数は、平成16年度以降増加傾向にあり、平成19年度には984人、1校区あたりでは47人となっています。

■校区社会福祉協議会ボランティア登録者数の推移

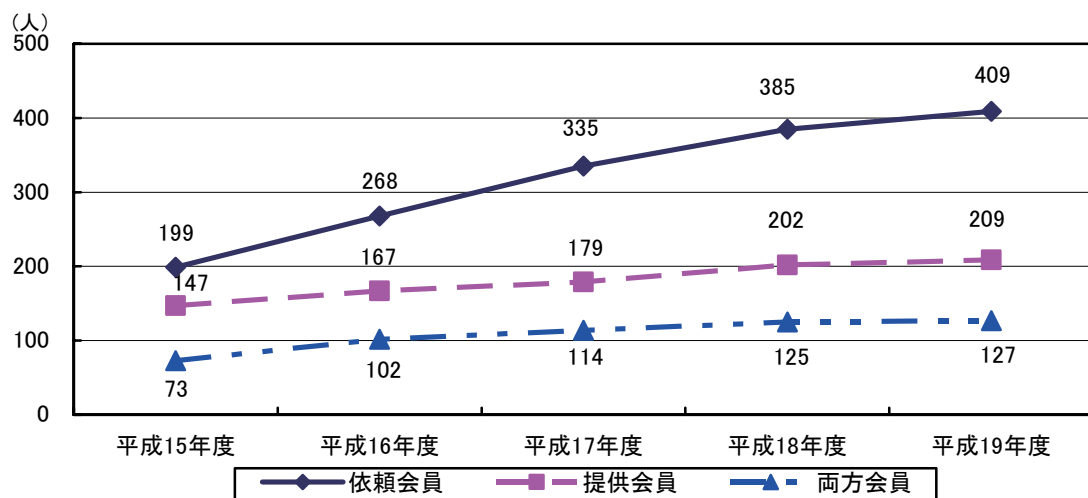


資料:社会福祉協議会

(2) 子育て支援（いずみファミリーサポートセンター）

ファミリーサポートサービスは、仕事と子育ての両立を支援するため、また、急用等で一時的に子どもを預ける必要ができたときなどに、育児の援助が受けたい人（依頼会員）と育児の援助を行いたい人（提供会員）を結びつける会員制の子育て支援サービスですが、依頼会員、提供会員共に増加しています。

■ファミリーサポートサービス会員数の推移



資料:社会福祉協議会

(3) 和泉ボランティア市民プラザ アイ・あいロビー

ボランティアグループ等が会議や研修のために自由に利用できる場を提供するとともに、ボランティアアドバイザーによるボランティア活動の推進に努めています。

アイ・あいロビーはボランティア活動の拠点施設で、ボランティアに関する相談、需給調整、活動場所の提供及び援助、ボランティア講座の企画・開催、情報の提供などを行う、8つの専門部会とボランティアアドバイザーによる運営委員会組織で運営されています。

ボランティアの活動は、従来からの福祉分野での活動が盛んですが、最近は各地域で高齢者、乳幼児を支援する団体よりのイベント的なボランティア依頼が増え、見て聞いて参加して楽しめる活動を行うグループの登録が求められています。

また、団塊の世代の人々や、個人での活動を支援する取り組みも求められています。

■アイ・あいロビー登録者数の推移 (単位：人、グループ)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
個人登録 (人)	175	137	133	105	79
グループ登録(人)	1,820	2,087	2,026	2,464	2,366
グループ数	64	79	70	71	69
NPO (人)	登録制度なし	267	128	447	425
団体数		7	7	6	7

資料：社会福祉協議会

(4) その他の事業

① 福祉サービス利用支援（日常生活自立支援事業）

認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分で、福祉サービスの利用や日常生活を営むうえで必要となる手続き等について不安を感じたり、自己の判断で適切に行うことが困難な方について支援します。

② 心配ごと相談

さまざまな心配ごとに対し、相談員が相談を受けています。

③ 社会福祉の集い

市民と社会福祉に携わる関係者、障がい者、ボランティアの交流を深め、福祉活動の啓発・推進を図るため開催しています。

④ 和泉きらめき障がい者作品展

障がい者の住みよいまちづくりの一環として、また多くの方のふれあいの輪を広げることを目的に、障がいのある方々の作品を集めた作品展を平成20年度より開催しています。

⑤ 広報活動

「社協和泉」を年5回発行しています。

⑥ 生活福祉資金貸付

低所得の人や身体障がい者・高齢者世帯など、他からの借入れが困難な世帯を対象に、生活の安定と自立を支援するため、大阪府小口生活資金、生活福祉資金、離職者支援資金、社協母子特別資金等を、必要に応じて貸付けています。

⑦ 各種団体事務

次の福祉関係団体の事務局として運営に携わり、地域福祉の推進に努めています。

団体名	活動内容
和泉市老人クラブ連合会	老人クラブ大会、ゲートボール大会、ペタンク大会、グランドゴルフ大会、スカイクロス大会、社会奉仕活動
和泉地区保護司会	社会を明るくする運動（街頭啓発、ミニ集会等）
和泉市更生保護女性会	愛の募金活動、和泉学園での誕生会や成人式
和泉BBS会	カッター体験、クリーン登山
和泉市身体障害者福祉会	和泉市身体障がい者の集い、スポーツ大会 “障がい者週間”ふれあい街頭キャンペーン
和泉市手をつなぐ親の会	レクリエーション、音楽療法、勉強会、成人式
和泉市母子福祉会	ボーリング大会、クリスマス会

3 まち 地域づくり（地域福祉活動）の輪を広げる取り組み

(1) ワークショップ開催事業

平成16年度は、市域を3つに分けそれぞれ2～3回ワークショップを開催しました。総計7回開催し、校区社会福祉協議会より5～20名程度の出席があり、延べ459名の参加がありました。

平成17年度は、校区単独で実施した2校区を含む合計11校区を対象に、計6回開催し、延べ288名の参加を得て実施しました。また、この年ワークショップを行わなかった9校区については、独自に、校区社会福祉協議会として何らかの取り組みを行っているとの報告を受けています。さらに、ワークショップと関連したイベントとして、鶴山台北校区単独で、「食育フェスタ」を開催しました。

平成18年度までは、大きな会場に何校区かが合同で、対象の校区の方々に集まっていたが、ワークショップを開催していましたが、平成18年度は、各校区単位で集まりやすい場所にて開催しました。その結果、参加者も増え、より各地域の実情に応じた、内容の濃い、ワークショップになりました。計12校区にて開催でき、ワークショップの内容については、各校区社会福祉協議会会長を中心に、事前に打ち合わせを重ね、各校区の実情に応じた内容で開催しました。その結果、昨年度までは見えてこなかった、さまざまな課題や取り組みを把握することができました。参加者についても、従来とは違い、各校区1回の開催となりましたが、延べ369名の参加がありました。

平成19年度も平成18年度同様、各校区単位で開催し、3校区にて延べ10回開催することができ、延べ202名の参加がありました。

平成20年度は、和泉市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の見直しの年であり、市域を5つに分けそれぞれ2回ワークショップを開催しました。総計10回開催し、校区社会福祉協議会より10名程度の出席があり、延べ504名の参加がありました。

■ワークショップの開催状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
ワークショップ事業	3か所に分け20校区にて開催 延べ459名参加	ソポゾムで発表の2校区のみ個別開催	各校区別に12校区で開催	各校区別に3校区で開催	5か所に分け21校区にて開催 延べ504名参加
		残り9校区合同で開催 延べ148名参加 延べ140名参加			

この計画策定後は、平成20年度のワークショップで話し合った、今後のテーマやアプローチについて、あるいは防災への取り組みなど、より具体的に組み組んでいただくために各校区でのワークショップの開催が必要です。

(2) はじめようまちづくり(地域福祉活動)シンポジウム事業

平成16年度より毎年シンポジウムを開催しています。年度によって内容は異なりますが、前半は基調講演、後半は活動実践の報告となっています。例年、200名から250名程度の参加があります。

■シンポジウムの開催状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	10月29日	11月21日	1月16日	2月22日	2月10日
シンポジウム事業	基調報告 講義	基調講演 ミニ講演	基調講演	P D C A 報告	基調講演 地域福祉計画 要旨報告
	3校区からの 発表	3校区からの 発表	1校区からの 発表 C S W活動発 表	推進員活動発 表 新規事業活動 発表	C S W活動発 表 災害ボラン ティア活動発表

校区が主となつてのワークショップの開催や、地域活動の中心となっている町会・自治会毎のワークショップの開催も検討する必要があることから、例年、コミュニティセンター多目的ホールなどの大きい会場で開催してきましたが、開催内容や場所の変更も含めて今後検討していく必要があります。

(3) 地域福祉推進員関連事業

平成16年度より3年間、地域福祉推進員（名称は、平成19年度途中までは地域福祉コーディネーター）の養成講座を開催し、91名の方が修了するとともに、地域福祉推進員として活動していただける方として73名の方の登録がありました。

平成17年度より、養成講座修了生を対象にスキルアップ講座を開催しています。平成17年度は、C S Wとの交流会や研修会を計4回実施し、その際に学習した「食育」についてのイベントを、今年度コーディネーター養成講座受講者を対象に実施しました。

平成18年度は、住民とともにつくる地域づくり事業の受託年度であったため、この事業の推進及びコーディネーター間の交流を目的に、全2回開催しました。

平成19年度は、「地域の社会資源の理解」をテーマの中心に、計5回のスキルアップ講座を開催しました。その中で、地域福祉コーディネーターの名称を地域福祉コーディネーターの皆さんの意見を取り入れて、地域福祉推進員に変更しています。また、幸校区での地域福祉推進員の取り組みを「はじめよう地域づくり（地域福祉活動）シンポジウム」の中で発表していただきました。他に、地域福祉推進員の希望者の方を対象に和泉市福祉公社の「聞き上手ボランティア養成講座」「福祉レクレーションボランティア養成講座」にもスキルアップ講座の一環として参加していただきました（9月～11月に計14回開催）。

平成20年度についても、スキルアップ講座を開催しました。

■地域福祉推進員関連事業の実施状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
養成講座	計8回開催 49名修了	計9回+ α 開催 19名修了	計6回開催 23名修了	×	登録者数73名
スキルアップ講座	—	計4回開催 別に育食フェスタ	計2回開催 新規事業について	計5回+ α 開催	1回開催

今後についても、各校区での活動の推進や、ワークショップ開催の際に中心となっていたと考えていますが、地域福祉推進員に権限がない、校区での人数が少ないといった理由もあり、活動しにくい状況もあります。

また、校区によって、活動ができていないといった課題もあります。今後、さらなるスキルアップ講座や、養成講座の開催も必要と考えられますが、地域福祉推進員の位置づけの見直しも時間をかけて検討することも必要です。

(4) 住民とともにつくる地域づくり事業

平成18年度に大阪府のモデル事業として受託した事業で、次の3つの柱を持つ事業として実施しました。

① 地域福祉活動の連携と協働体制づくり事業

町会や自治会がすでに組織化されている地域において、地域福祉活動のさらなる連携と協働体制づくりをめざすものです。要援護者に対する見守りネットワークや生活課題の早期発見・つなぎ機能を発揮して、地域住民及び関係機関と連携を図りながら、支援の輪を広げていくことを目的としています。

平成18年度より、黒鳥校区をモデル校区とし、実践しています。平成18年度にはふれあいネット会議を4回、実践を3回、平成19年度にはふれあいネット会議を4回開催しています。また、見守りも定期的に行っています。

平成20年度については、引き続き見守り活動を実施しています。

② 住民自治への取り組み事業

町会・自治会や子ども会等がないマンションを対象に、つながりをつくることをめざすものです。孤立死や虐待、介護疲れ等は、地域社会からの孤立が一因といわれています。また、災害時に近所に誰が住んでいるのかわからない・・・といった状況では、被害の拡大に直結します。そこで、子育てや介護予防、防災といった、住民の生活課題や関心の高い事柄をテーマにした話合いや催しを通じ、つながりづくりの支援をすすめることを目的としています。平成18年度より、国府校区及び青葉はつが野校区にあるマンションをモデルとし、実践しています。

青葉はつが野校区については、打合せ会議や、マンションの理事会への説明会などの会議を4回開催しました。その後、連合の自治会に加入していただけて、一定の成果があったため、取り組みを終了しています。国府校区については、平成18年度に、打合せ会議を2回、おもちゃ図書館のイベントを2回開催しています。

また、平成19年度にも打合せ会議を3回、ラジオ体操のイベントを延べ6日開催しています。

③ 地域共生ふれあい支援事業

地域の中には、さまざまな病気や障がいのある人が生活しています。しかし、病気や障がいのある人に対する理解が十分に認識されているとは言えないのが現状です。そこで、障がいのある人に対する理解を深め、だれもが主役となって住みやすい地域づくりをめざすことを目的としています。

平成18年度は、精神障がいについて中心に勉強するグループと、知的障がい者について中心に勉強するグループに分かれ、活動しました。また、全体会を1回、富山県の「このゆびとーまれ」への視察研修も開催しました。さらに、その成果を2種類の冊子にまとめました。

平成19年度は、完成した啓発冊子を、和泉市内の公共機関や警察、学校、病院、商店街等に配布しました。また、冊子の配布の際に、コミュニケーションボードも一緒にスーパーやコンビニに渡しているほか、市役所の窓口にも設置しています。また、全体会を4回、出前講座を1回開催しています。平成20年度も継続して、啓発活動や交流活動に取り組んでいきます。

■住民とともにつくる地域づくり事業

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
地域福祉活動の連携と協働体制づくり事業	黒鳥校区で実施	継続して会議等を開催	継続して見守りを実施
住民自治への取り組み事業	国府校区・青葉はつが野校区で開催	国府校区で継続して取り組み	
地域共生ふれあい支援事業	啓発の冊子を作成	啓発の冊子を作成	啓発活動の継続

これらの事業については、平成18年度のみ補助事業であったものの、継続した取り組みが必要であり、年度を越えて実施してきました。地域福祉活動の連携と協働体制づくり事業については、モデル校区での取り組みは、会議こそ定期的に行われていないものの、見守り活動を定期的に行っています。住民自治への取り組み事業は、モデル校区のうち、ひとつは一定の目的を達成し、もうひとつは活動が難しい状況です。今後も町会・自治会への加入支援も含めた取り組みは必要ですが、継続して協力してもらえるキーパーソンの発見に課題があります。地域共生ふれあい支援事業も障がいのある人に対する理解を深めるために継続が必要ですが、全体会への参加メンバーの見直しや、事業そのものの枠組みについて検討していくことが必要と考えられます。

第3章 地域福祉力を高め みんなで広げていくために

1 推進に向けた取り組み

地域福祉を取り巻く環境が大きく変化し、そのニーズも複雑・多様化するなか、社会福祉協議会の活動は新たな福祉課題に取り組む必要があります。このため、今後求められる社会福祉協議会像とそれにふさわしい事業、財源、並びに効果的で効率的な組織運営体制の構築を図るために、和泉市社会福祉協議会あり方検討委員会を設置し、平成21年3月に提言を行いました。その内容も含め、和泉市社会福祉協議会では以下の項目を中心に、地域福祉の推進を図ります。

■推進に向けた取り組み体系

基本
理念

地域の福祉の力 みんなで広げる 大きな輪

(1) だれもが安心して暮らせる住みやすい地域づくり事業の推進

① 総合的な在宅福祉サービスの充実

- 障がい児・者支援、子育て支援事業の充実
- 孤立死、ひきこもり、認知症、虐待等の課題への取り組み
- 災害時、防災への取り組み など

② 地域福祉コミュニティづくりの推進

- いきいきサロン・子育てサロンの拡大
- 市内社会福祉施設・関係機関との連携

③ 市の地域福祉施策との連携

- 総合的な相談体制の確立
- 地域福祉計画をはじめ、保健・医療・福祉関係の計画との連携・協働

(2) 地域での“いきいき”づくりを支える組織整備

① 組織体制の充実

- 理事・評議員・監事・部会・委員会等について

② 地域福祉の推進を図る組織

- 校区社協体制の充実
- 校区社協ボランティア、地域福祉推進員等の人材育成
- 校区社協事業の活動拠点の確保

③ 住民参加を促進するための会員の確保

- 住民会員、組織構成会員、賛助会員の確保

④ 地域福祉コミュニティを推進するための事務局体制

- 事務所の確保、職員体制の確保・充実、職務分担の明確化

(3) 地域福祉活動を進めるしくみづくり

① ワークショップによる推進

- 校区別、福祉関係者別等ワークショップによる計画課題の検討

② 地域福祉情報化の推進

- 広報活動の充実
- 情報提供体制の充実

③ 関係団体・関係機関との連携

- 地域福祉事業の創出
- 福祉の視点でのまちづくり

(4) 地域福祉活動を支える安定した財政基盤の強化

① 安定的な財源の確保

- 会員の拡大
- 収益事業、その他財源の検討

② 適正な事業費の執行

- 地域福祉啓発・理解への支援

③ 受託事業、補助事業の検討

- 行政との連携

(1) だれもが安心して暮らせる住みやすい地域づくり事業の推進

① 総合的な在宅福祉サービスの充実

○ふれあい配食（声かけ）サービス事業やひとり暮らし高齢者等誕生月プレゼント訪問、いきいきサロン等の事業の一層の推進を図るとともに、認知症に対する理解を深め、徘徊見守りや家族に対する支援活動ができるよう、学習会の開催を進めるとともに、市行政や関係機関等との連携のもとに、地域でのネットワークの確立を図ります。

○地域住民を対象に障がい者に対する理解を深め、社会参加や地域での交流を深められるよう、作品展の開催や地域での交流機会の充実を図ります。また、介護サービスや障がい福祉サービスの利用、日常的な金銭管理に不安のある認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者などが地域で自立した生活ができるよう、日常生活自立支援事業の普及と利用の促進を図ります。

○保護者の通院や緊急時など子どもの一時的預かりができるよう、ファミリーサポートセンター事業の推進を図るとともに、保健センターや学校、福祉施設等と連携し、食育や福祉の心を育む事業の推進を図り、地域での取り組みに発展するよう支援します。

○孤立死やひきこもり、認知症、虐待等の課題に対して、校区社会福祉協議会等による地域での見守りや支援が行えるよう、地域での要支援者の把握から通報・支援等のセーフティネットワークづくりを進めます。

○障がいのある人やひとり暮らし高齢者など、災害時に援護を必要とする人が、災害時にも安心して避難等ができるよう、町会・自治会等による自主防災組織

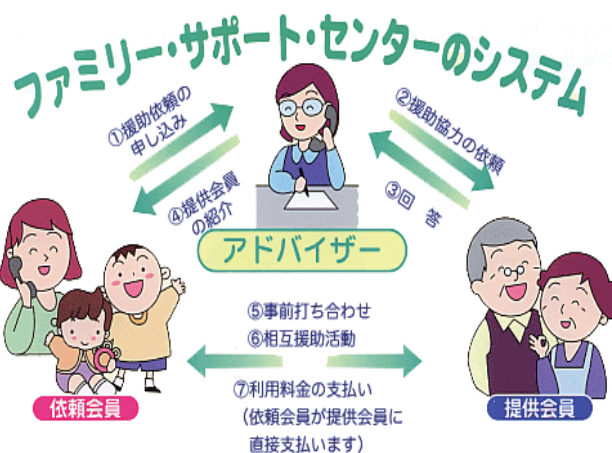
日常生活自立支援事業

福祉サービスの利用援助

日常的な金銭管理サービス

通帳・証書類等預かりサービス

対象者は、和泉市内に居住する人で認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分で、福祉サービスの利用や日常生活を営む上で必要となる手続き等について不安を感じたり、自己の判断で適切に行うことが困難な方で、和泉市社会福祉協議会と交わす契約書に定めるサービス内容について理解できる人です。



との連携のもとに、身近な地域での避難体制や安否確認などの体制を整えるとともに、援護を必要とする人も含めた防災訓練等の実施を促進します。また、社協内救援システムの確立と救援の組織づくりや、行政・関係各機関と連携しながら、円滑な災害時ボランティアの受け入れ等について引き続き研究・検討していきます。

② 地域福祉コミュニティづくりの推進

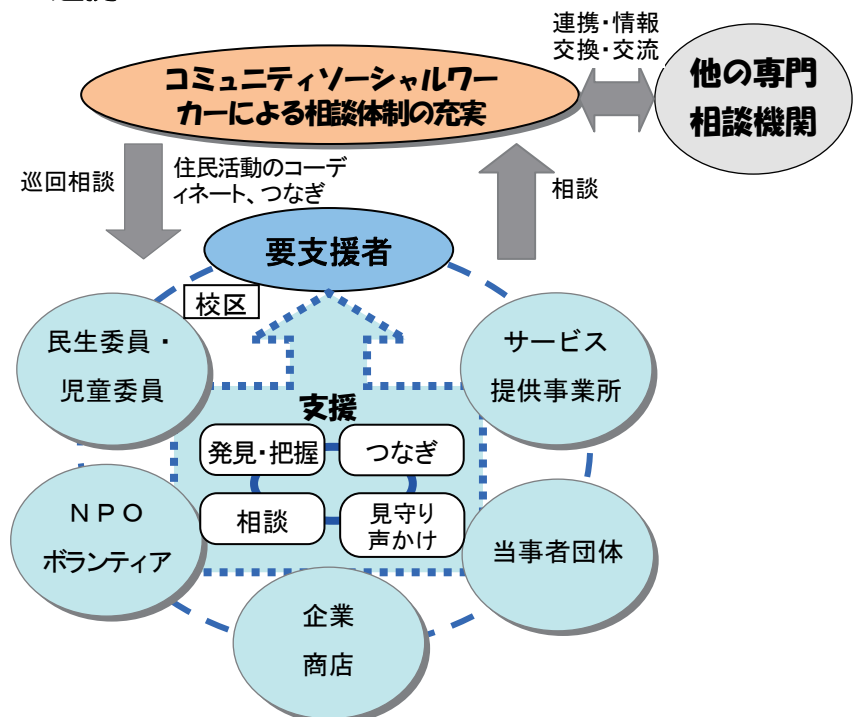
○地域での出会いの場や交流の場を増やし、お互いの顔見知りの関係を深め、住民相互の支えあい、助けあいのできる温かな地域づくりを進めます。その一環として、いきいきサロンや子育てサロンの拡大を図っていきます。いきいきサロンや子育てサロンについては、サロン運営がうまくいっている市内外の事例の収集・情報提供や情報交換の場づくりなどを進めます。

【目標】全校区で子育てサロン1か所の開設

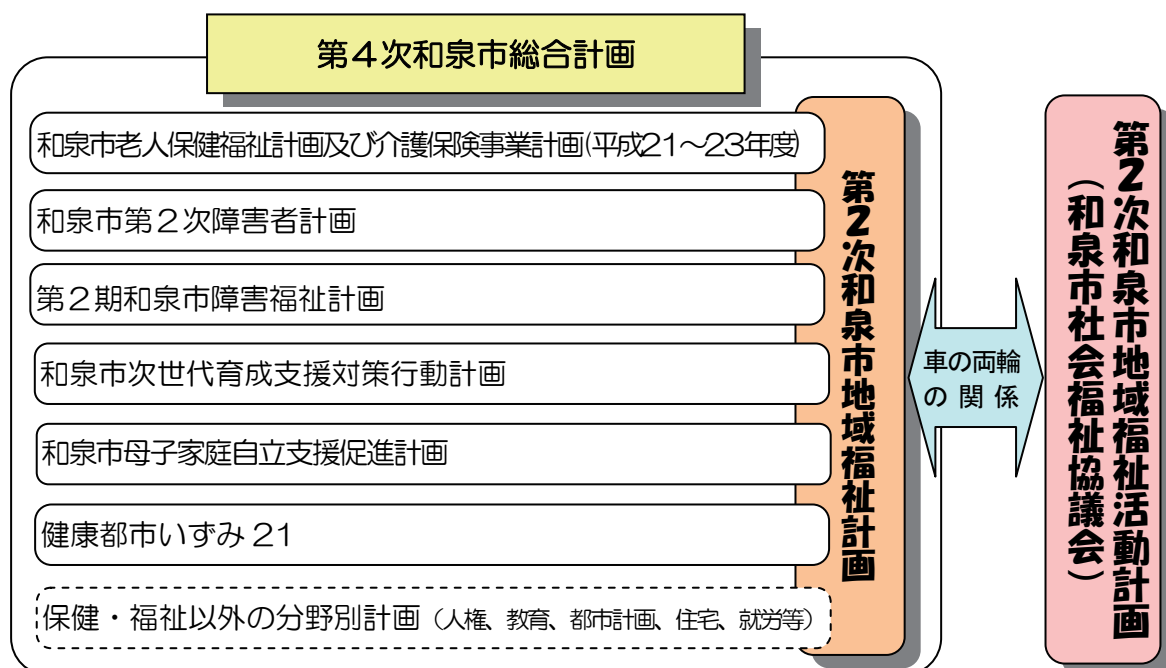
○市内社会福祉施設や関係機関との連携を強化し、施設との交流や施設の開放など、地域住民同士や施設利用者との交流機会づくりを促進します。

③ 市の地域福祉施策との連携

○和泉市地域福祉計画では、基本施策の1つに「総合的な相談体制を充実する」をあげています。①とも連動しますが、日常生活の中で困りごとを抱えたまま地域で孤立することのないように、また、身近な地域でも気軽に相談できるような体制の充実に努めます。



○和泉市地域福祉計画をはじめ保健・医療・福祉関係の計画との連携・協働のもとに、地域での福祉活動の推進を図ります。



(2) 地域での“いきいき”づくりを支える組織整備

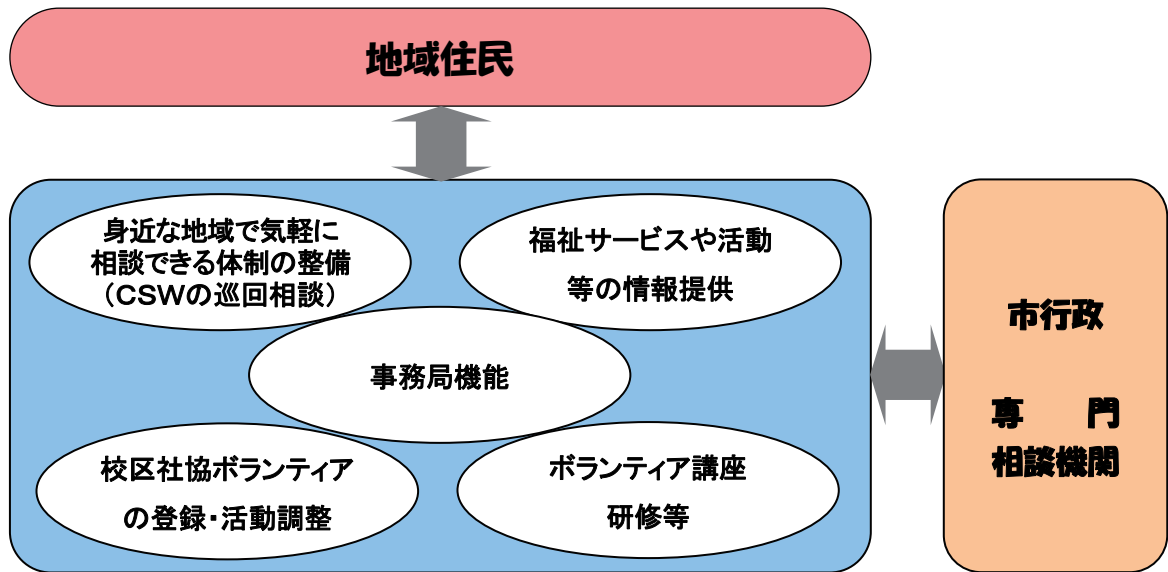
① 組織体制の充実

○社会情勢の変化の中で、社会福祉協議会の役割も変化しています。地域の生活課題に対応し、社会福祉協議会の役割が十分発揮できるよう、組織運営体制の強化を図ります。

② 地域福祉の推進を図る組織

○地域福祉の推進を図る基礎的な体制として校区社会福祉協議会の果たす役割は一層大きくなっています。校区社会福祉協議会の役割や活動について地域住民に理解していただけるよう、広報の充実を図るとともに、校区社会福祉協議会ボランティアや地域福祉推進員等の人材の養成・確保を図ります。

○(1)の③とも連動しますが、身近な相談窓口であったり、校区社会福祉協議会の活動についての広報、ボランティア情報の収集や登録・調整などを行える地域での活動拠点の確保に努めます。



③ 住民参加を促進するための会員の確保

○校区社会福祉協議会の活動等住民参加を促進するため、校区社会福祉協議会活動についての理解を深めるとともに、会員の確保を図ります。

④ 地域福祉コミュニティを推進するための事務局体制

○地域福祉コミュニティを推進するため、社会福祉協議会の事務局体制の強化を図るとともに、校区社会福祉協議会の活動拠点の確保に努め、事務局機能の強化に努めます。

(3) 地域福祉活動を進めるしくみづくり

① ワークショップによる推進

○地域福祉活動を進める上で、地域のさまざまな生活課題（福祉ニーズ）の把握と解決に向けて、地域住民や福祉関係者によるワークショップ（参加体験型学習）での検討を重視し、和泉市地域福祉計画の重点プログラムで取り上げられているテーマについて、市と連携して取り組んでいきます。

■和泉市地域福祉計画にあげられているワークショップのテーマ一覧

テーマ	開催年度	参加者
地域施設の点検	平成21年度	校区社協、企業、商店、福祉施設など
地域での防災	平成21年度	校区社協、障がい者団体、企業、商店、福祉施設など
地域施設の利用	平成22年度	校区社協、企業、商店、福祉施設など
地域の生活課題	平成22年度	校区社協、団塊の世代、福祉関係者、NPO、企業商店など
障がいのある人の就労支援	平成23年度	校区社協、障がい者団体、企業、商店会、NPO、障害者自立支援協議会など
巡回相談窓口の設置	平成23～ 25年度	CSW、民生委員・児童委員、地域福祉コーディネーター、当事者団体など

② 地域福祉情報化の推進

○和泉市社会福祉協議会や校区社会福祉協議会について広く理解していただくための広報活動の充実を図ります。また、広報紙は誰もが読みやすく、親しみの持てるように工夫を図ります。

○市行政や関係機関との連携を強化し、地域福祉に関するさまざまな情報を収集・管理できる機能の充実を図るとともに、身近な地域で情報の提供を受けることができるよう、情報のデータベース化やネットワーク化など、情報化の推進を図ります。

③ 関係団体・関係機関との連携

○地域住民の生活課題を解決するため、企業やNPO等とも連携して、制度の狭間にいる人たちや複合的な要因で困難な状態にある人を支援できるよう、新たな地域福祉事業の創出のための情報交換や交流、研修等の機会をつくっていきます。

○当事者団体や企業、NPO等とも連携して、障がい者や高齢者の就労の場の確保や商店街の活性化など、福祉の視点でのまちづくり活動などを推進します。

(4) 地域福祉活動を支える安定した財政基盤の強化

○地域福祉コミュニティづくりを推進していくうえにおいては、事業の効果的・効率的な運営と、安定した財源の確保が必要です。

○財源の用途を広く理解してもらうため、地域福祉を進めるための財源の明確化を行い、情報を提供し、社会福祉協議会活動や役割について啓発していきます。

第4章 小学校区別活動計画

■ 小学校区別活動計画の構成

各地域がかかえる生活課題（福祉ニーズ）はさまざまであり、それを解決していくためにはそれぞれの地域での取り組みが重要です。

地域福祉活動の中核となる校区社会福祉協議会は、小学校区単位で組織され、さまざまな取り組みが行われてきました。

そこで、この計画の策定にあたり、小学校区別にワークショップ方式による地域懇談会を開催し、第1次地域福祉活動計画策定後の取り組みや問題点、課題などを検討していただくとともに、今後の取り組みについても併せて検討していただきました。

この章では、小学校区別に地域住民が検討しました具体的なテーマ（目標）や具体的に取り組みたいことを「小学校区別活動計画」として示しています。

その構成は次のとおりです。

■ 小学校区別活動計画の構成

項目	内容
(1) 校区の概要	●平成15年及び平成20年（両年5月1日現在）の年齢3区分（15歳未満、15～64歳、65歳以上）別人口（住民基本台帳による）の推移
(2) 福祉活動の状況と課題	●小地域ネットワーク活動について取り組んでいる活動とその推移 ●活動状況と課題のまとめのコメント
(3) 今後の取り組み	●地域の主要課題 ●テーマ（目標） ●アプローチ（具体的に取り組みたいこと）
(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）	●校区の地域福祉力評価とコメント 地域福祉力とは、地域のさまざまな生活課題を解決するため、地域にかかわるさまざまな人や団体、機関等の個々のあるいは協働の取り組みであったり、かかわり方であったり、あるいは資源などの総称です。それを形として評価できないかということで、平成19年度実施の福祉関係者アンケート調査により、「意識」「参加」「認知」「学習」「まとまり」「しくみ」の6つの分野で質問項目をそれぞれ5項目設定し、選択肢を点数化して分野毎に集計したものです（具体的な地域福祉力を測る軸と項目については資料編を参照）。



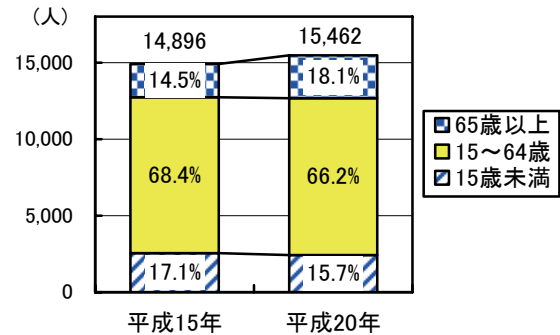
1 国府校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は15,462人で、市内で最も多く、この5年間で566人増加しています。

15歳未満人口率は15.7%で、平成15年より1.4ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は18.1%で、平成15年より3.6ポイントも上昇し、高齢化が進んでいます。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	17		9	—	143	46	133
平成20年度	18	457	12	—	185	50	219

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは12か所で結成されており、ゲーム、健康体操、野外活動、絵画鑑賞、押花、絵手紙、書道、茶話会、勉強会、ビデオ鑑賞、カラオケ、花見、クリスマス会、新年会、節分会、日帰り旅行、ハイキングなどを行っています。 ●町によっては敬老会や敬老祝金、町内の清掃活動や盆踊り、子ども会・老人会・婦人会活動を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども会や老人会がない所がある、民生委員・児童委員のなり手が無いといった人材の問題、サロンに人が集まらない、始められない、続けられない、あるいは報告が細かすぎるといったサロンの問題や他にも個人情報の問題やゴミを勝手に置いていくといった問題が課題となっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●配食の利用者が多く、行事内容によっては多くの人が集まるといった点が誇れる点です。 ●老人会と子ども会で話し合う、学校帰りの子どもを預かり、お年寄り子どもが集まれる場をつくるといった対策についても話し合われました。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 校区社会福祉協議会会議の充実と定期開催
- 福祉コーディネーターの育成
- 校区で統一した住民参加の催し



■ テーマ (目標)

笑顔でふれあ^{まち}う地域づくり



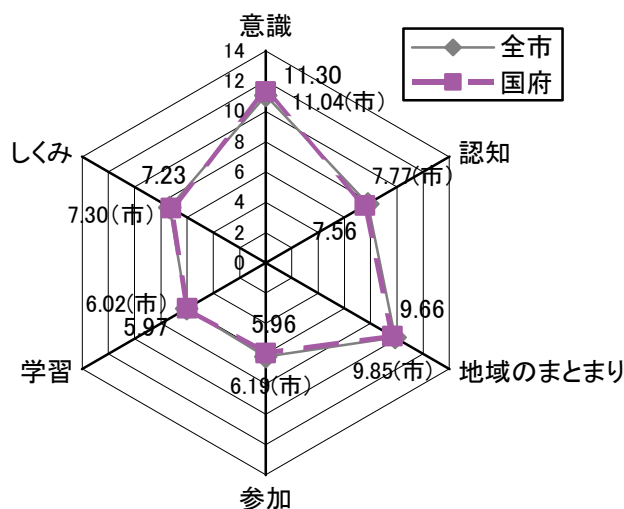
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○校区内各団体のつどい、交流会	校区社会福祉協議会・会長	各団体の長	平成21年度から
○他校区との交流	//	//	//
○ふれあいの場(納涼大会)の継続	//	//	//
○大人と学童とのふれあいの拡大	//	//	//
○リーダー・指導者等人材の底辺拡大	//	//	//

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

国府校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野で評価が低くなっています。

また、「意識」では和泉市全体よりも若干高く、その他の分野は若干低いものの、6分野共にほぼ和泉市全体と同程度の評価となっています。



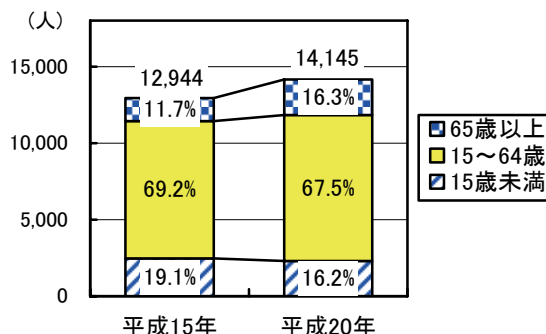
2 和気校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は14,145人で、市内で2番目に多く、この5年間で1,201人増加しています。

15歳未満人口率は16.2%で、平成15年より2.9ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は16.3%で、平成15年より4.6ポイントも上昇し、高齢化が進んでいます。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	11		3	—	43	16	73
平成20年度	11	210	6	—	51	20	125

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは6か所で結成されており、茶話会、ゲーム、歌、健康体操、ラジオ体操、歌体操、健康チェック、ビデオ鑑賞、折り紙、ハーモニカ、尺八、三味線、手品、グランドゴルフ、花見、七夕まつり、敬老会、クリスマス会、新年会、カルタ遊び、豆まき、ひなまつり、バスツアーなどを行っています。サロン数は、5年前の3か所から6か所に増えています。 ●校区パトロールにも取り組んでいます。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンについては、参加していない人へのアプローチや積極的な参加呼びかけ、男性の参加者を増やす、ボランティア（特に若い人）を増やすといった問題や、地域によっては、会場が2階にあり、上り下りが大変といった問題があります。 ●隣人とのあいさつや近所づきあいが少ない、登校時の学童の交通誘導、子育てサロンの開設といったことも課題となっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●サロン数が増え、また、参加人数も増えて仲間づくりができたといった点、あるいはボランティアが活躍しているといった点が誇れる点です。 ●他にも、郷荘中学校の巡回に町会も参加するようになった点もあげられます。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 世代間交流、老人憩の家の活用
- 防災対策（高齢者や障がい者に対して）
- ボランティアの高齢化（募集しても新しい人から反応がない）



■ テーマ（目標）

住んでみたい、暮らしてみたい、頼れる校区！



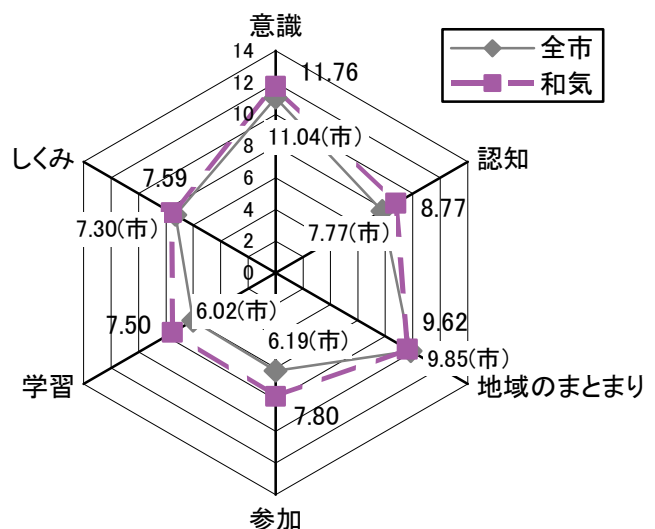
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○子育てサロンの開催(まずは見学会・勉強会)	ボランティア	ボランティア	平成21年度から
○囲碁や将棋など高齢者の趣味を生かした活動の場を立ち上げる	町会長	町会長	年明け頃から
○上記を各町会で推進(人の掌握、リーダーの発掘等)			
○緊急連絡カードの普及・徹底	民生委員・児童委員、校区委員長	町会長	

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

和気校区の地域力評価は、和泉市全体に比べて「参加」や「学習」の分野も評価が高くなっています。

また、「地域のまとまり」では和泉市全体よりも若干低いものの、その他の分野は和泉市全体より評価が高く、特に「認知」や「参加」「学習」では1ポイント以上高くなっています。



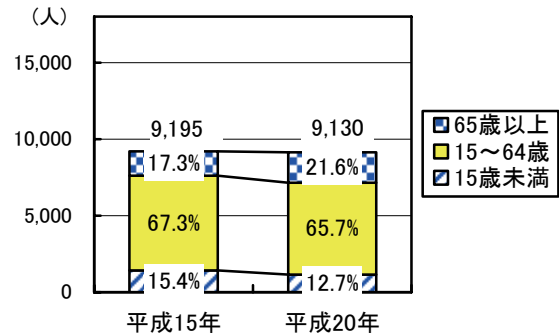
3 伯太校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は9,130人で、市内で10番目に多く、この5年間で65人減少しています。

15歳未満人口率は12.7%で、平成15年より2.7ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は21.6%で、平成15年より4.3ポイントも上昇し、高齢化が進んでいます。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数 (人)	いきいきサロン (か所)	子育てサロン (か所)	ふれあい配食サービス (人)	おせち料理配食サービス (人)	誕生日プレゼント訪問 (人)
平成15年度	11		2	—	59	18	83
平成20年度	12	340	2	1	77	41	114

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンは2か所で結成されており、花見、新年会、カラオケなどを行っています。また、子育てサロンも1か所で結成されており、リズム体操、エプロンシアター、運動会、人形劇などを行っています。 他にもひとり暮らし高齢者への訪問や、伯太小学校ふれあいフェスタ・地蔵盆への参加、伯太幼稚園・太平学園・伯太学園への訪問や町内・神社の清掃を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者への健康体操の提供やひとり暮らし高齢者の家庭への訪問を強化する、といった問題やボランティア活動のPRの必要性、ボランティアが高齢化しており、若い人の参加を促すといったことが課題となっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> 町会内はきめ細かいつきあいが行われており、町会内の各種団体の連携が緊密です。また、伯太小学校であいさつ運動も行われています。 他にも、町内防犯活動も定期的に行われており、防犯灯の数が多く、充実した有線放送により犯罪発生抑制と町民への情報提供の充実につながっています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- ボランティアの高齢化⇒お年寄りがお年寄りを支える時代の到来
- ひとり暮らし高齢者の増加⇒安否確認等の充実⇒高齢者を訪問する際に、プライバシー保護との関係でどのあたりまでつき合えるか？
- 防災訓練（防災に対する意識の希薄化）→防犯については充実しているので、そこから防災についても検討できないか？+避難場所の確認、井戸の位置の確認、高齢者の避難場所や避難の仕方の確認+避難マップづくり



■ テーマ（目標）

人の輪ができる 明るく 豊かで 安全なまちづくり



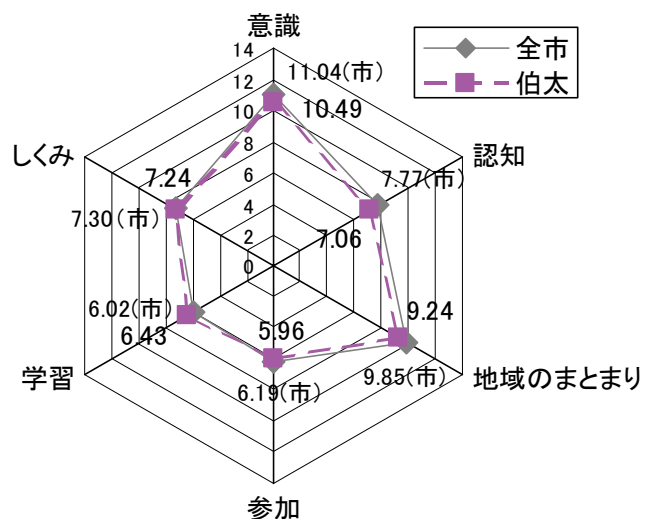
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○人の輪ができる町内コミュニティセンターの拡充 ハード:老若男女共通の場	町内の人	市当局、有志	
○安い、うまい、楽しい、安全、心地よい工夫(ソフト)	企画者(有志)	参加者及びボランティア等	
○災害を予想した対策チームとボランティア等の協働⇒防災委員会の設置	警察・自衛隊・消防のOB・OG	町民 チーム防犯	

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

伯太校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低くなっています。

また、「学習」では和泉市全体よりも若干高いものの、その他の分野は和泉市全体より評価が低くなっています。



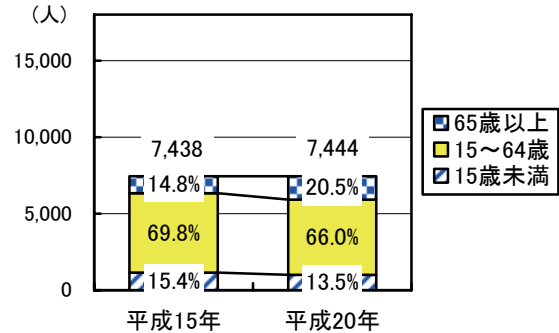
4 池上校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は7,444人で、市内で14番目で、この5年間で6人の増加と横ばいとなっています。

15歳未満人口率は13.5%で、平成15年より1.9ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は20.5%で、平成15年より5.7ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しくなっています。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	7		3	—	47	10	46
平成20年度	7	346	7	—	32	17	97

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンは7か所で結成されており、健康体操、地域清掃、折り紙、茶話会、世代間交流、カラオケ、盆踊り、敬老会、クリスマス会などを行っています。 ● 他にも防犯活動や朝夕の子ども安全パトロールや秋祭りへの協力、ボランティアがグループを分け見守り訪問活動を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアの参加人数を増やしたい、活動はしたいけれど仲間が集まらないといった問題があります。 ● 他にも、児童を含めた援助活動の促進や、近隣見守りを続けていくための方法、健康のための軽体操の実施といった課題があります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ● サロン数が増え、親しい人が増え、話しかけてきてくれる人も増えて来ています。 ● また、池上曽根遺跡公園をボランティアの協力会を組織して守っており、他にも全員参加型の町内清掃の実施や子ども安全パトロールにより、子どもが進んであいさつしてくれるようになりました。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 近隣とのコミュニケーションを広めたい
 隣人との接触機会を考える。隣近所の人々への声かけ、あいさつ等、ひとり暮らし高齢者の心を開くように話し合う。一声運動。民生委員・児童委員の活動を知ってもらう
- 世代を超えた交流の場がほしい
- 防犯活動



■ テーマ (目標)

小地域ネットワーク 弥生池上の活動を広める



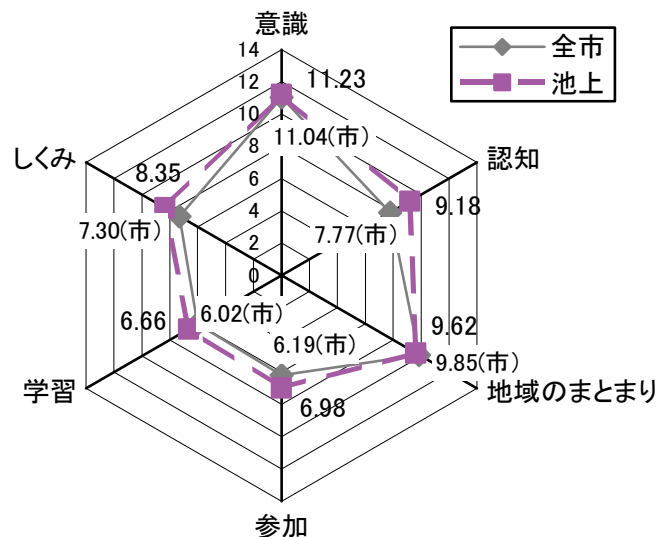
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○活動状況を回覧板にて報告し、参加募集を促す	校区社会福祉協議会 町会・自治会	ボランティア 役員	平成21年度から

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

池上校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他の分野よりも低くなっています。ただし、和泉市全体よりも高い評価となっています。

また、「地域のまとまり」が和泉市全体よりも若干低いものの、その他の分野は和泉市全体より評価が高く、特に「認知」では1ポイント以上高くなっています。



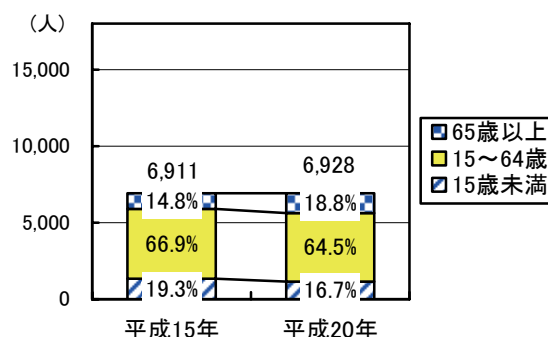
5 黒鳥校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は6,928人で、市内で15番目で、この5年間で17人の増加と横ばいとなっています。

15歳未満人口率は16.7%で、平成15年より2.6ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は18.8%で、平成15年より4.0ポイント上昇し、高齢化が進んでいます。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数(人)	いきいきサロン(か所)	子育てサロン(か所)	ふれあい配食サービス(人)	おせち料理配食サービス(人)	誕生日プレゼント訪問(人)
平成15年度	11		1	—	63	20	54
平成20年度	11	142	2	—	36	21	55

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは2か所で結成されており、小物づくり、体操、ゲーム、合唱、ハーモニカ、食事会、花見、七夕まつり、クリスマス会、遠足などを行っています。他にもさわやか喫茶や老人談話会を開催している地区もあります。 ●出前講座の利用や世代間交流の実施、サンガーデンでの小物づくりやボランティア会報誌の発行を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンについては、参加者を増やしたい、男性の参加者が少ない、昼間ひとり暮らし高齢者の参加を増やしたい、もっと身近なところでのサロンの会場を増やすといった問題があります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアのチームワークが良く、他校区のサロンや街かどデイハウスなどへボランティアが参加しています。 ●見守り隊によるあいさつ運動を行っており、参加者が100名を超えました。下校時に自転車パトロールを行ったり、犬の散歩をその時間に合わせたりしています。 ●子どもとのふれあいや交流も実施しています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 世代間交流
- いきいきサロン等の会場を増やす
- 財源の確保
- ボランティアを増やす



■ テーマ (目標)

参画によって 広げる交流の場



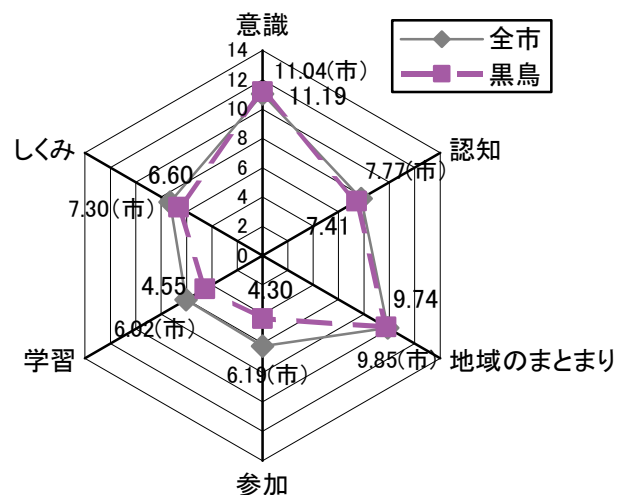
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○小学生との交流をもっと増やす	ボランティア	老人会	
○小学校のマラソン大会にボランティアで参加	見守り隊	保護者	毎年度(マラソン大会当日)
○いきいきサロンの会場を増やす(山荘にも)			
○財源確保 金のかからないいきいき喫茶のような事業 会費徴収 青空市場等の計画			

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

黒鳥校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低くなっています。

また、「意識」は和泉市全体より若干高く、「認知」や「地域のまとまり」では和泉市全体より若干低いものの大差ありませんが、「参加」や「学習」「しくみ」は和泉市全体より評価が低く、特に「参加」と「学習」では1ポイント以上低くなっています。



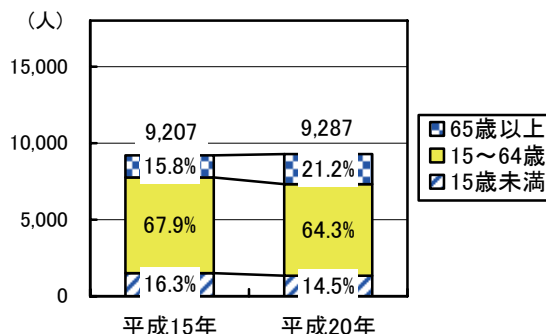
6 芦部校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は9,287人で、市内で9番目に多く、この5年間で80人の増加となっています。

15歳未満人口率は14.5%で、平成15年より1.8ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は21.2%で、平成15年より5.4ポイントも上昇し、一層高齢化が進んでいます。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	9		8	—	9	6	35
平成20年度	9	94	8	2	18	27	70

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは8か所で結成されており、健康体操、茶話会、手芸、押花、料理、DVD鑑賞、紙芝居、ゲーム、手品、ダンス、民踊、大正琴、コーラス、ウクレレ、ハーモニカ、カラオケ、ペタンク、グランドゴルフ、スカイクロス、盆踊り、忘年会、新年会などを行っています。また、子育てサロンも2か所で結成されており、エプロンシアター、紙遊び、ボール遊び、水遊び、シャボン玉遊び、絵本読み、人形劇、紙芝居、七夕まつり、運動会、クリスマス会などを行っています。 ●他にも、ピオラ和泉でのホーム喫茶やうなずき会の買い物補助や弥生町子ども通学路の見守り会や施設と地域の交流も行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンへの男性の参加者が少ないという問題と、ボランティアの指導力が弱いという問題があります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●芦部小学校の子どもパトロールは組織をあげて取り組んでいます。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- いきいきサロン、地域内における世代間交流・協力
- 各町に子育てサロン
- 人材の確保



■ テーマ (目標)

みんなが笑えるまちづくり



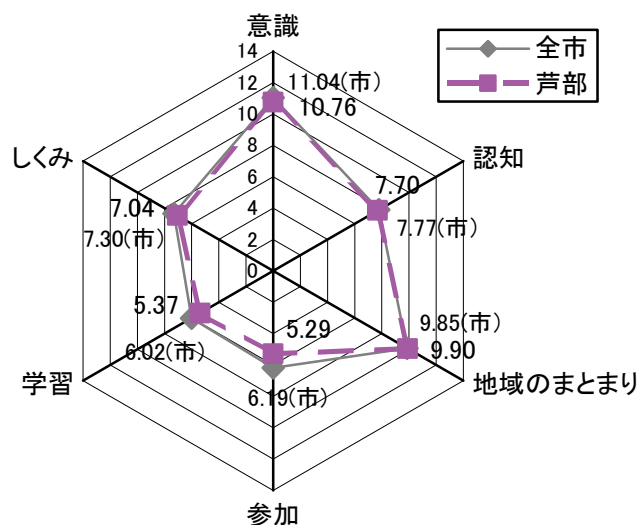
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○新住民と旧住民の親睦(町会への入会)	各町会・自治会の会長	役員	3
○子どもの見守りを継続していく	自治会または有志	全住民	1
○各町に子育てサロン設置(指導者、ボランティアの育成)	各町会・自治会の会長	ボランティア 子どもの保護者	2
○健康体操の実施(町内会員多数が参加できる)	〃	ボランティア	4

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

芦部校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低くなっています。

また、「参加」及び「学習」は和泉市全体よりも低く、その他の分野も若干低くなっています。



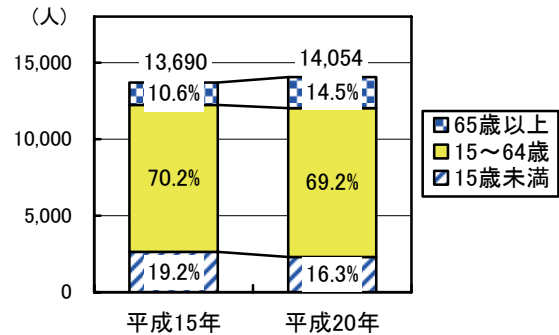
7 北池田校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は14,054人で、市内で3番目に多く、この5年間で364人の増加となっています。

15歳未満人口率は16.3%で、平成15年より2.9ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は14.5%で、平成15年より3.9ポイント上昇し、高齢化が進んでいますが、まだ15歳未満人口率の方が高い状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	15		6	—	59	18	75
平成20年度	15	167	7	—	30	18	81

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは7か所で結成されており、健康体操、太鼓活動、野外活動、社会見学、フラワーアレンジ、グランドゴルフ、カラオケ、花見などを行っています。 ●他にも、校区のボランティア交流会や夜警、子どもだんじり、盆踊り、運動会、餅つき、フラダンス、光明荘でのボランティア活動などを行っています。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンについては、すべての町会・自治会で立ち上がってほしい、町会・自治会からの協力、協賛がもっとほしいといった問題があります。 ●また、障がい者に対する参加の呼びかけや活動資金について、あるいは活動がマンネリ化しているといった問題もあります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンの参加人数が多く、ボランティアの活動力も強く、明るく活発です。他にも、サロンでの手作りのおやつや、光明荘が近いおかげで活動が続いているといったこともあげられます。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- いきいきサロン、地域内における世代間交流・協力
- 老人会の協力
- 参加者の呼びかけ
- いきいきサロン活動のマナー化



■ テーマ (目標)

**赤ちゃんから高齢者まで、声かけ合って
興味をもてる地域づくりを！**



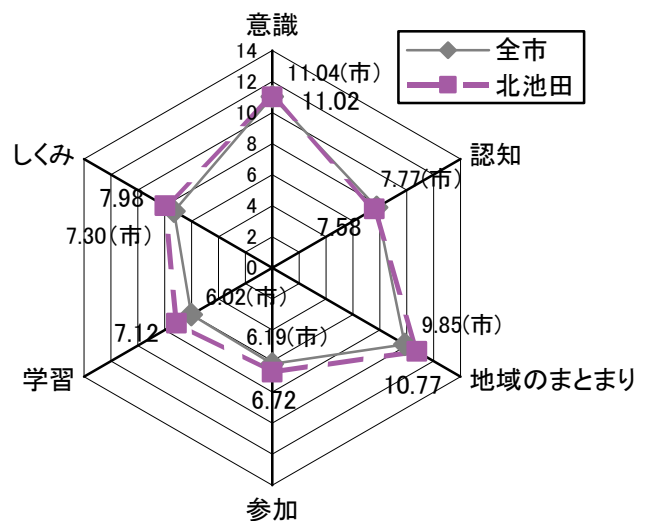
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○町会の方から、理解を深め、進んで協力を願う	町会長	地域住民	1
○老人会役員のいきいきサロンへの積極的な集客	ボランティア代表	ボランティア	2
○子ども会、老人会、町会、婦人会、いきいきサロンともに世代間交流を行う	各種団体代表	各種団体	3

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

北池田校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低いものの、和泉市全体よりも高く、特に「学習」では1ポイント以上高くなっています。

また、「意識」や「認知」は和泉市全体よりも若干低く、「地域のまとまり」や「しくみ」は高くなっています。



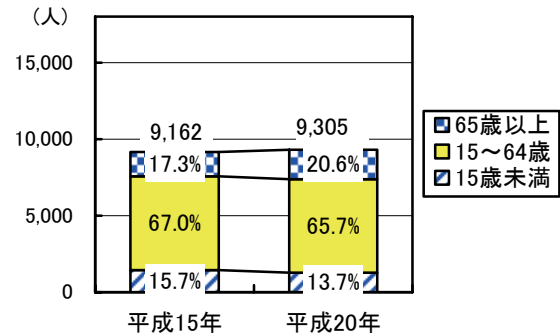
8 南池田校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は9,305人で、市内で8番目に多く、この5年間で143人の増加となっています。

15歳未満人口率は13.7%で、平成15年より2.0ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は20.6%で、平成15年より3.3ポイント上昇し、高齢化が進んでいます。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数(人)	いきいきサロン(か所)	子育てサロン(か所)	ふれあい配食サービス(人)	おせち料理配食サービス(人)	誕生日プレゼント訪問(人)
平成15年度	10		10	—	59	19	110
平成20年度	10	165	10	—	12	15	110

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは10か所で結成されており、ゲーム、手品、民踊、小物づくり、軽体操、講演会、リサイクル活動、茶話会、グランドゴルフ、ゲートボール、食事会、カラオケ、クリスマス会、新年会、もちつき大会、日帰り旅行、野外活動などを行っています。 ●見守りネットワークが行われている所や、小学校登下校の見守りも行われています。 ●他にも、消防団による夜警や子どもだんじり、町の運動会が行われています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●活動資金が不足しているといった問題や、新住民や男性、若い人の参加が少ないといった問題、また、ボランティアが少なく、いきいきサロンのネタが不足している、老人会が減少しているという課題があります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアが元気で、校区連合町会が資金支援・人的支援を継続して実施しており、いきいきサロンの取り組みが多く行われています。 ●町会、婦人会、老人会、子ども会、ボランティア、民生委員・児童委員が熱心に活動しています。 ●他にも、ボランティア団体により清掃活動が行われている所もあります。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 男性、若者の参加が少ない
- 新興住宅転入者の参加が得られない
- ボランティアのなり手が少ない
- 活動資金がない



■テーマ（目標）

世代を超えて 皆が集う南池田



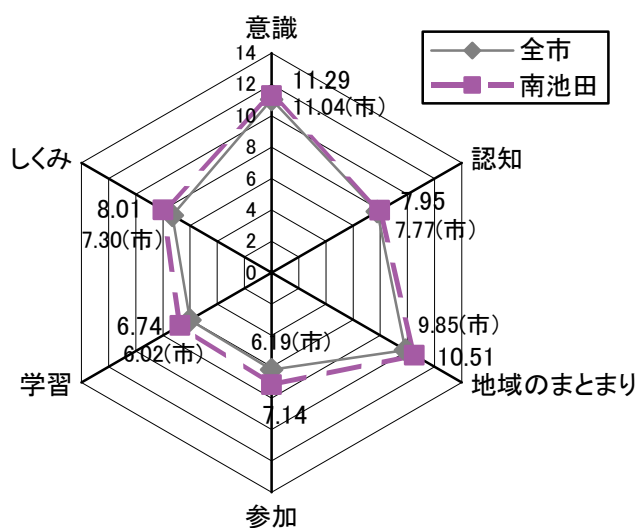
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○イベント情報を回覧以外に、口コミでのPRに努める	ボランティア組織	町会、各種団体	1
○高齢者と子どもが共に参加できるようなイベントの開催	〃	子ども会 老人会	2

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

南池田校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低くなっているものの、両分野共に和泉市全体よりも高くなっています。

また、どの分野も和泉市全体よりも高くなっています。



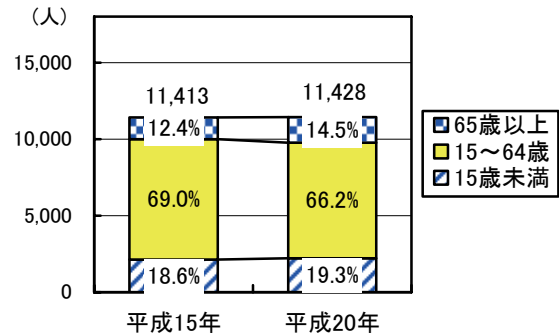
9 北松尾校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は11,428人で、市内で6番目に多く、この5年間で15人の増加と横ばいとなっています。

15歳未満人口率は19.3%で、平成15年より0.7ポイント上昇し、一方、65歳以上人口率は14.5%で、平成15年より2.1ポイント上昇し、高齢化が進行していますが、まだまだ15歳未満人口率が高い状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数 (人)	いきいきサロン (か所)	子育てサロン (か所)	ふれあい配食サービス (人)	おせち料理配食サービス (人)	誕生日プレゼント訪問 (人)
平成15年度	6		4	—	11	4	56
平成20年度	6	97	5	—	17	16	42

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンは6か所で結成されており、折り紙、民踊、健康体操、手芸、押絵、フラワーアレンジメント、絵手紙、茶話会、編物、町内清掃、文化祭、散策、グランドゴルフ、カラオケ、花見、旅行などを行っています。 ● 消防団や女性消防クラブ、子ども見守り隊や夜警、公園の水やりや町内清掃、盆踊りや炊き出し、だんじりや花見会といった取り組みが行われています。 ● 他にも、桃山学院大学との交流も行われています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 町会・自治会に入会していない人はサロンに参加できなかったり、新興住宅地の人のサロンへの参加が少なかったりします。 ● 新旧住民が混在しており、隣同士のふれあいや会話がなく、ボランティアに参加してくれる人も少ないといった問題があります。 ● 他にも、高齢夫婦世帯の増加やひとり暮らしの人が増加しているといった問題があります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ● 秋祭りのだんじりでまとまる町もあり、世代間交流を目的にふれあいフェスタを継続して開催しています。 ● 他にも、町会・自治会やボランティアの手で河川敷公園に花を咲かせ、よい憩いの場となっています。また、町内や公園の清掃を行っています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 新旧住民の交流が少ない
- 高齢者に対するボランティア活動が少ない
- 環境美化意識が不足
- 世代間交流が少ない



■ テーマ (目標)

みんなおいでよ！ 楽しいよ！！



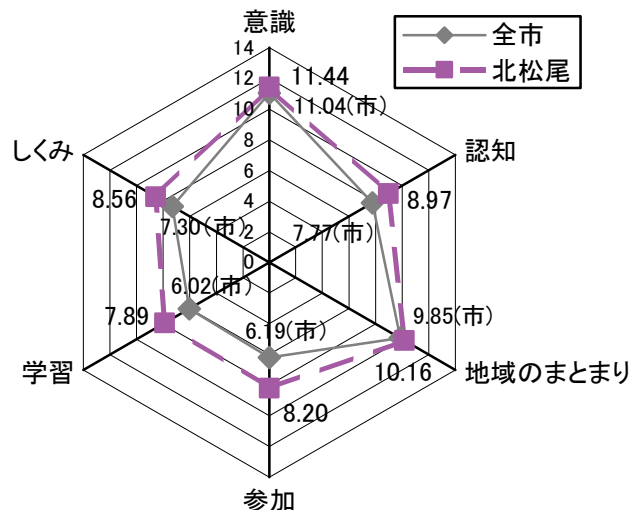
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○環境美化活動	町会・自治会会長		春・秋 年2回
○ふれあいフェスタの実施(継続)	校区社会福祉協議会 及び町会・自治会	専門職と地域 ボランティア 自治会・子ども 会・老人会	平成21年秋
○各種サークル活動			
○老人会活動の活性化	各町会の老人会	校区社会福祉協 議会 (CSW) 地域包括支援センター	平成21年4月より

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

北松尾校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他分野よりも低くなっています。

また、「地域のまとまり」以外の分野は和泉市全体よりも低く、特に「参加」は2ポイント、「認知」や「学習」「しくみ」は1ポイント以上も低くなっています。



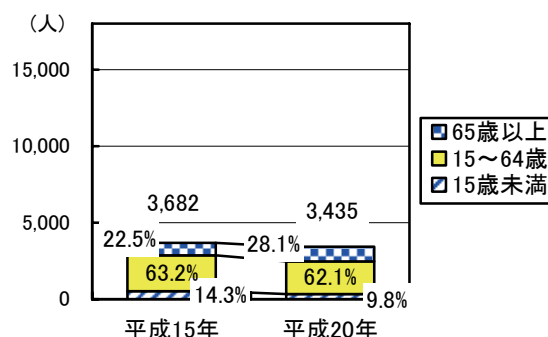
10 南松尾校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は3,435人で、市内で20番目と少なく、この5年間で247人の減少となっています。

15歳未満人口率は9.8%で、平成15年より4.5ポイントも低下し、一方、65歳以上人口率は28.1%で、平成15年より5.6ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数 (人)	いきいきサロン (か所)	子育てサロン (か所)	ふれあい配食サービス (人)	おせち料理配食サービス (人)	誕生日プレゼント訪問 (人)
平成15年度	5		5	—	14	2	35
平成20年度	5	53	5	—	10	3	56

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンは5か所で結成されており、ゲーム、健康体操、歌体操、街かどデイハウスの利用、ウォーキング、交通安全教室、介護予防の話、カラオケ、花見、七夕まつり、敬老の日、クリスマス会、節分、ひなまつりを行っています。また、校区合同でのサロンも開催しています。 ● 他にも、学童見守り活動を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンについては、男性の参加が少ない、参加する人が毎回同じ人になっている、参加人数が少ない、60歳代の参加が少ない、声かけをしても本当に来てほしい人にとっては参加しにくいといった問題があります。また、世話が大変なので、サロンの回数を少なくしてほしいといった声もあります。 ● 他にも、指定避難場所が遠く、坂が多い、空き家が増えてきているといった課題もあります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学生が道で出会うとあいさつをしてくれます。また、高齢者にも仕事があり、近隣で困ったときには助け合いもあり、見守りが行き届いています。 ● 他にも、幼稚園・小学校・中学校の合同体育祭を開催しています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 高齢化の進行
- 空き家、空き巣など防犯対策
- 避難場所の選定等
- ごみの不法投棄



■ テーマ (目標)

安全で住みやすいまちづくり



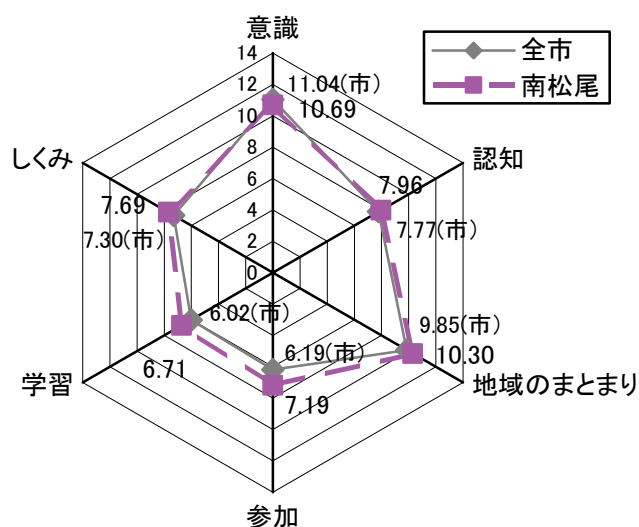
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項 目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○地域の新しい枠組みづくり	町会役員 (校区役員を含む)	各種団体、住民	新年度までに準備 (校区で話し合い)
○校区の防災総合訓練及び避難場所の安全点検	町会役員 (校区役員を含む)	各種団体、住民	新年度までに準備 (校区で話し合い)

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

南松尾校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他分野よりも低くなっています。

しかし、「意識」以外の分野は和泉市全体よりも高く、特に「参加」は1ポイント高くなっています。



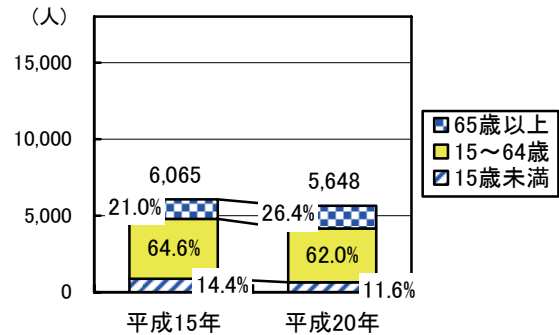
11 横山校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は5,648人で、市内で18番目と少なく、この5年間で417人の減少となっています。

15歳未満人口率は11.6%で、平成15年より2.8ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は26.4%で、平成15年より5.4ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	12		4	—	21	11	69
平成20年度	12	87	6	1	23	21	102

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンは6か所で結成されており、ゲーム、保健指導、保育園児との交流、フラワーアレンジメント、ビデオ鑑賞、健康体操、大正琴、カラオケ、七夕まつり、敬老会、クリスマス会、お楽しみ会などを行っています。また、子育てサロンも1か所結成されており、ゲーム、お楽しみ会、保育園児との交流、絵本、おもちゃで遊ぶといったことを行っています。 ● 他にも、ひかりの園へのボランティア訪問を行っています。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てサロンの取り組みを広げることや、いきいきサロンの活動を拡大し、未実施の町にも拡大させることが課題となっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ● 榎尾中学校区「翔け榎尾っ子の会」による行事の開催や、子ども会・青年団・婦人会が協力して実施している横山体育祭の開催、ふれあいコンサートや戦没者慰霊祭を開催しています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- いきいきサロンの男性参加
- 子育てサロンの校区の連携
- 各町内にいきいきサロンの活動を拡大



■ テーマ (目標)

好きやねん 横山 ～笑顔で一声 話・和・輪！～



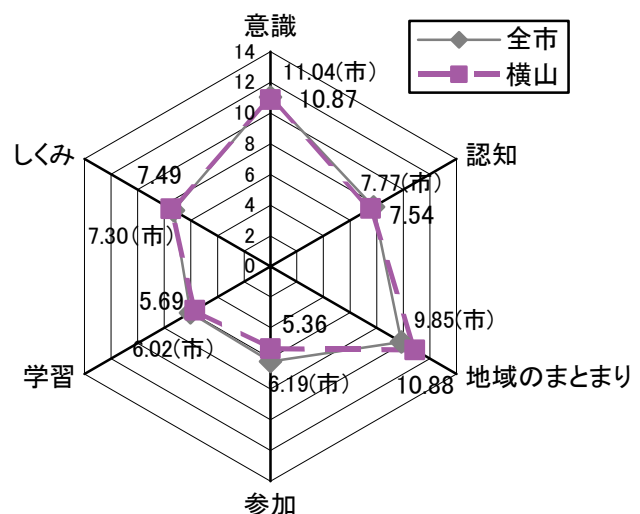
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○実態把握(家に閉じこもっている人)	校区社会福祉協議会	民生委員・児童委員	年度当初
○隣近所の声のかけ合い	町会役員	住民	毎時
○男性でも喜んで参加できる活動内容の検討	ボランティア	民生委員・児童委員、校区社会福祉協議会(町会役員)	できるだけ早く
○いきいきサロンの拡大	//	//	//
○子育てサロンを合同でする(校区)2か所	//	//	//

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

横山校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他分野よりも低くなっています。

また、「地域のまとまり」や「しくみ」は和泉市全体よりも高く、特に「地域のまとまり」は1ポイント高くなっています。それ以外の分野は和泉市全体よりも低くなっていますが、「参加」以外は大差ありません。



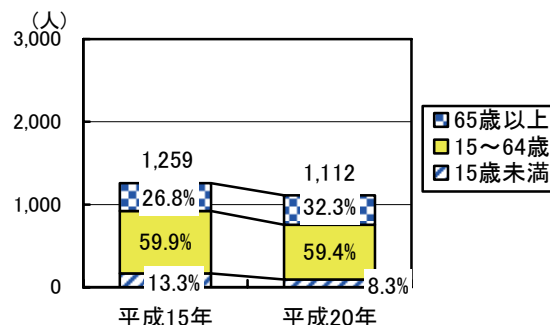
12 南横山校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は1,112人で、市内で最も少なく、この5年間で147人の減少となっています。

15歳未満人口率は9.2%で、平成15年より5.0ポイントも低下し、一方、65歳以上人口率は32.3%で、平成15年より5.5ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	3		3	—	2	0	21
平成20年度	3	23	3	—	2	2	27

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは3か所で結成されており、介護予防の話、健康体操、小物づくり、映画鑑賞、缶拾い、食事会、千羽鶴作成、敬老祝賀会、クリスマス会などを行っています。 ●笹踊りや炭焼きといった伝統文化の継承にも取り組んでいます。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンについては、良い刺激となるような企画や、参加者の健康維持が課題となっています。 ●ボランティア不足や少子化による行事への参加者減少が課題となっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●ふれあい会食については参加者は楽しく満足しており、支援者も楽しめるようになっています。 ●他にも美化キャンペーンや公道の缶拾い、花植えを行い、参加者の健康維持にもつながっています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 災害時の対応（高齢者や障がいのある人の避難）
- 坂道や狭い道路が多い
- ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加
- ボランティア不足
- 公共交通機関がない



■ テーマ（目標）

助け合う街 南横山！！



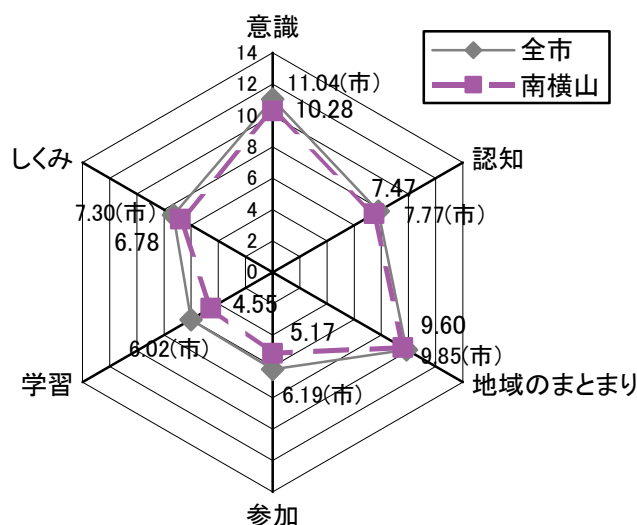
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○災害発生時の安否確認方法と救出方法の確立	町会	消防団、青年団、婦人会、民生委員・児童委員、市	早急に
○ボランティアの育成	町会、校区社会福祉協議会	各種団体 高齢者有志	早急に

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

南横山校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他分野よりも低くなっていますが、特に両分野共に1ポイント以上低くなっています。

そのほかの分野も和泉市全体よりも低くなっています。



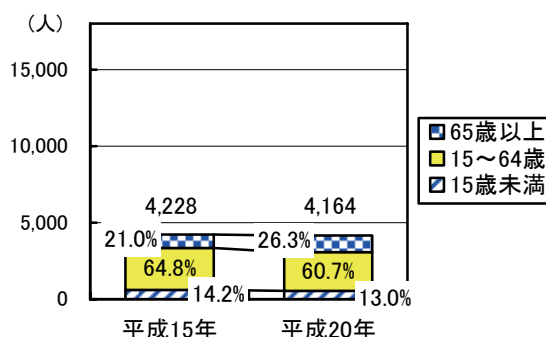
13 幸校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は4,164人で、市内で19番目と少なく、この5年間で417人の減少となっています。

15歳未満人口率は13.0%で、平成15年より1.2ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は26.3%で、平成15年より5.3ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数(人)	いきいきサロン(か所)	子育てサロン(か所)	ふれあい配食サービス(人)	おせち料理配食サービス(人)	誕生日プレゼント訪問(人)
平成15年度	4		4	—	44	17	115
平成20年度	4	460	3	—	56	31	182

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは3か所で結成されており、茶話会、カラオケ、健康体操、ゲームなどを行っています。 ●ひとり暮らし高齢者等の訪問活動、小学校でのあいさつ・声かけ活動、通学経路の見守り活動を行っています。 ●他にも、街の美化やゲートボール、グランドゴルフを行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●団地内での孤独死や新しい住民との交流、道路が広くないことによる交通事故の増加、ボランティアの高齢化といった課題があります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●校区社会福祉協議会の活動として、老人クラブの交流につながる活動の支援や、世代間交流イベントの開催、福祉情報の広がりがあります。 ●高齢者の見守り事業をスタートしており、早期発見で助かる場合もあります。ただ、ボランティアだけでは対応できない程数が多く、近所の輪をつくっていく必要があります。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 高齢化が進んでいて、お互いの声かけ・交流が少ない
- 高齢者の取り組みが少ない
- 高齢者を支えるボランティアの高齢化と人材不足
- 青少年の問題が多い（地域の中で2～3か所に集まるところがある）



■ テーマ（目標）

**住民の交流と声かけ（見守り、注意）で
トラブルの少ない街を！！**



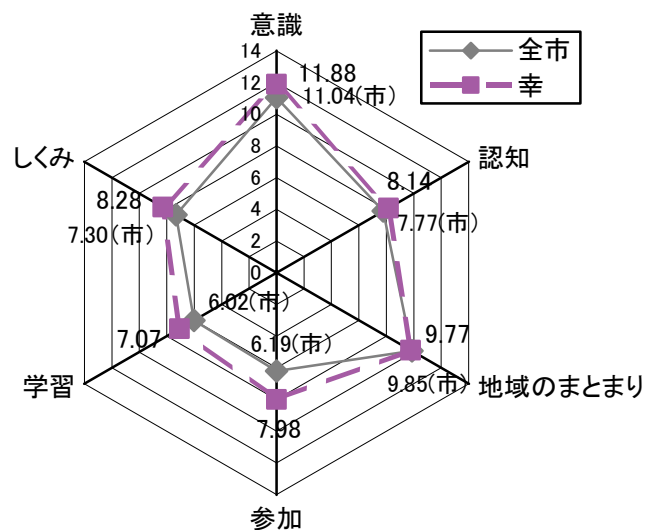
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○集まる機会を増やす(カラオケ、いきいきサロン)	入居者組合 老人クラブ	住民	1月24日イベント
○女性の関心をひくものがないか		住民など	
○青少年問題への取り組み(注意する看板掲示)	住民(役員)	学校、防犯委員会、PTA	年末～
○今取り組んでいることを知らせる！！	社会福祉協議会	高齢者 障がい者	年末～

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

幸校区の地域力評価は、和泉市全体とは異なり「参加」や「学習」の分野の評価が高くなっています。

また、「地域のまとまり」が若干和泉市全体よりも低いものの、そのほかの分野は和泉市全体よりも高く、特に「参加」や「学習」は1ポイント以上高くなっています。



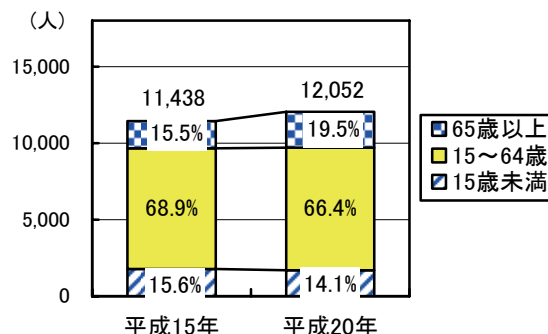
14 信太校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は12,052人で、市内で5番目に多く、この5年間で614人の増加となっています。

15歳未満人口率は14.1%で、平成15年より1.5ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は19.5%で、平成15年より4ポイント上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数 (人)	いきいきサロン (か所)	子育てサロン (か所)	ふれあい配食サービス (人)	おせち料理配食サービス (人)	誕生日プレゼント訪問 (人)
平成15年度	10		6	—	95	24	130
平成20年度	11	304	7	—	80	53	16

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは7か所で結成されており、編物、押絵、手芸、ゲーム、健康体操、小物づくり、お茶会、折り紙、作品展、紙芝居、喫茶、グランドゴルフ、カラオケ、花見、千羽鶴、河内音頭、クリスマス会、食事会などを行っています。いきいきサロンは全町会での実施をめざしています。 ●ひとり暮らし高齢者への声かけ運動で頼まれれば買い物もしています。 ●他には、元気っ子の見守りも行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンについては、参加者が決まっており、新しい参加者が増えるように場所や声かけを考える、あるいは校区全体のサロンの実施を積極的に進めるといった課題があります。 ●70歳以下でも、買い物に行けない人には配食サービスがほしい、ひとり暮らし高齢者の買い物につきそってほしい、といった声があります。 ●他にも、福祉ボランティアに関心を持ってもらえるような啓発活動を行いたいといった課題もあります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●平和の折り紙を折ったときに、ボランティア会員以外の人々の参加・協力があつた点、声かけ運動のときに、顔を覚えてもらった点、小学校元気っ子の実施により、子ども・PTA・教師等との交流が深まった点などがあげられます。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- コミュニケーションを高める
- 校区全体でいきいきサロンの活動を積極的に行う
- 若い世代と男性に対してボランティア活動への参加を呼びかける



■ テーマ (目標)

笑顔であいさつ 住みよい信太



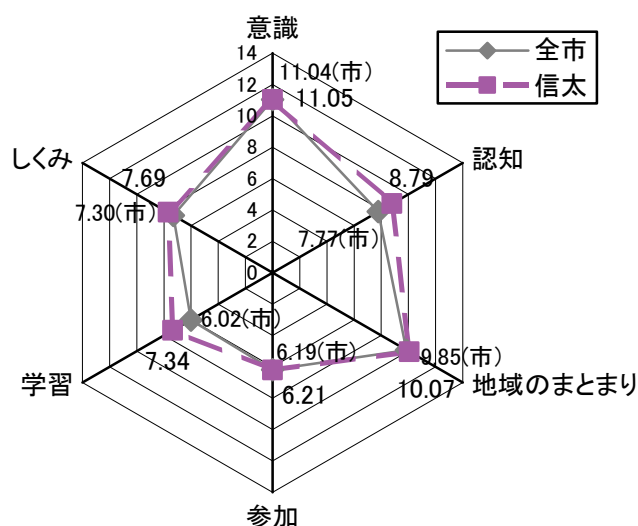
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○校区各種団体(町会、老人会、子ども会、ボランティア、青年団等)にあいさつ運動を呼びかける	各種団体の長	各種団体の役員	できる時から

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

信太校区の地域力評価は、和泉市全体とは異なり「学習」の分野の評価が高くなっています。

また、どの分野も和泉市全体と同程度あるいは高く、特に「学習」や「認知」は1ポイント以上高くなっています。



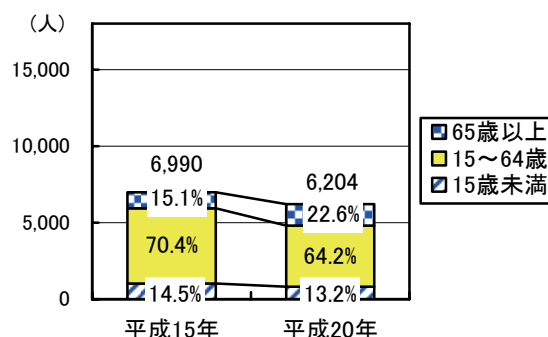
15 鶴山台南校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は6,204人で、市内で17番目で、この5年間で786人も減少しています。

15歳未満人口率は13.2%で、平成15年より1.3ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は22.6%で、平成15年より7.5ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	13		3	—	55	30	72
平成20年度	14	414	3	—	50	42	122

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは3か所で結成されており、唱歌、クイズ、ビデオ鑑賞、手品、演芸、手芸、散歩、小物づくりなどを行っています。 ●公園の清掃や歩道の花植え、登下校時の見守りや防犯パトロール、エンゼルハウスやおもちゃ図書館、敬老祝賀会や夏祭り、文化祭といった多くの取り組みを実施しています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●活動の拠点が無いことが一番の欠点となっています。 ●住民間や自治会・社会福祉協議会との連携の強化、自治会内の人と人との結びつきの強化、地域の結びつきの希薄化、高齢化・少子化、男性のボランティアが少ない、小グループのいきいきサロンの立ち上げが問題となっています。 ●他にも、個人情報保護法の壁も問題となっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●知らない人から相談を受けるようになった点や、孤立死が少しずつ減ってきている点、あいさつを進んで行うようになった点があげられます。 ●また、エンゼルハウスで子育て支援ができており、おもちゃ図書館では障がいを持つ子どもの居場所ができています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 自治会の会員不足⇒人材不足
共同意識が低い（賃貸住宅が77%を占めているが、自治会における賃貸住宅の割合は17%にすぎない）
- 各組織との連携不足
自治会等各種団体の役員があまり協力的ではない、組織の連携がない
- 拠点が無い



■ テーマ（目標）

ネットワークづくり



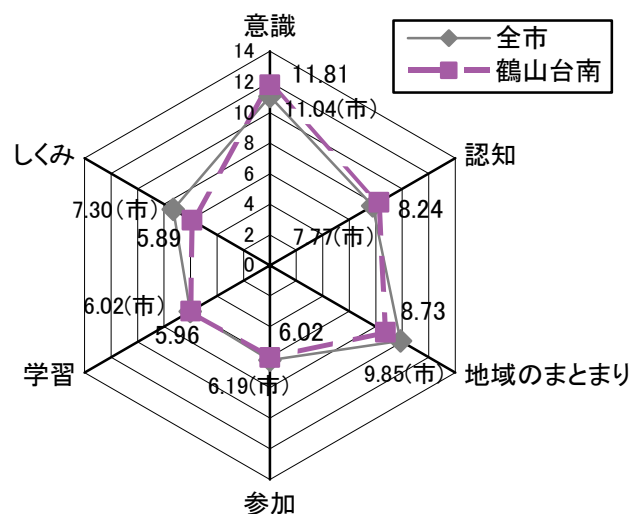
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○既存組織との連携強化		地域の活動家	すぐに
○各種イベントの開催		地域役員 ボランティア	
○住民意識の啓発・向上			

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

鶴山台南校区の地域力評価は、和泉市全体とは異なり「しくみ」の分野の評価が特に低く1ポイント以上の開きがあります。

また、「意識」や「認知」の分野は和泉市全体よりも高くなっています。



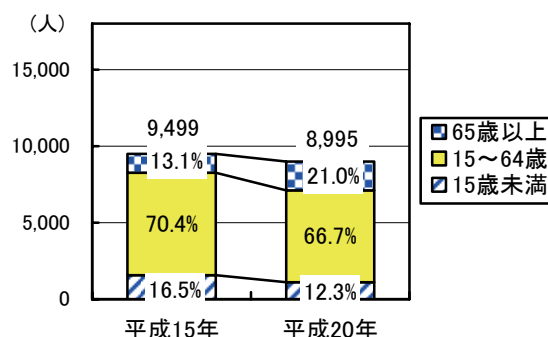
16 鶴山台北校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は8,995人で、市内で11番目で、この5年間で504人も減少しています。

15歳未満人口率は12.3%で、平成15年より4.2ポイントも低下し、一方、65歳以上人口率は21.0%で、平成15年より7.9ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数(人)	いきいきサロン(か所)	子育てサロン(か所)	ふれあい配食サービス(人)	おせち料理配食サービス(人)	誕生日プレゼント訪問(人)
平成15年度	10		10	—	47	4	40
平成20年度	10	134	21	1	70	15	68

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは21か所で結成されており、茶話会、小物づくり、歌体操、ふれあい喫茶、囲碁、書道教室、ダンス、ペタンク、スカイクロス、グランドゴルフ、ゲートボール、詩吟、大正琴、カラオケ、夏祭り、敬老の日などを行っています。 ●ひとり暮らし高齢者の見守りや、社会福祉協議会ボランティアによる戸別訪問も行っています。 ●他にも、老人会と小学生の交流会や登下校時の見守り、夏祭りや清掃活動を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●活動に参加する人が限定され、サロンへの参加者が少ないため、無関心な人をなくしていくという問題があります。 ●ボランティアの人数を増やす、若い人の参加を増やすといった点や、活動資金が不足しているといった点も課題としてあがっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンの数が増えた点やフットワークが軽い点、老人会・自治会・子ども会共催のお祭りを立ち上げたことにより、地域のコミュニケーションがスムーズになった点があげられます。 ●他にも、個別援助活動でお世話してくれる人が多い点、若年層が比較的多い点、新旧住民の意思疎通が充分取れており、町会行事に対して協力的な点があります。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- ボランティア活動に無関心な人に関心を持ってもらえるよう認識を深める！！
- 各世代を含めての参加！！
- 活動資金の不足により充実した活動ができない



■ テーマ (目標)

「地域は一つ」うるおいのある町に！！



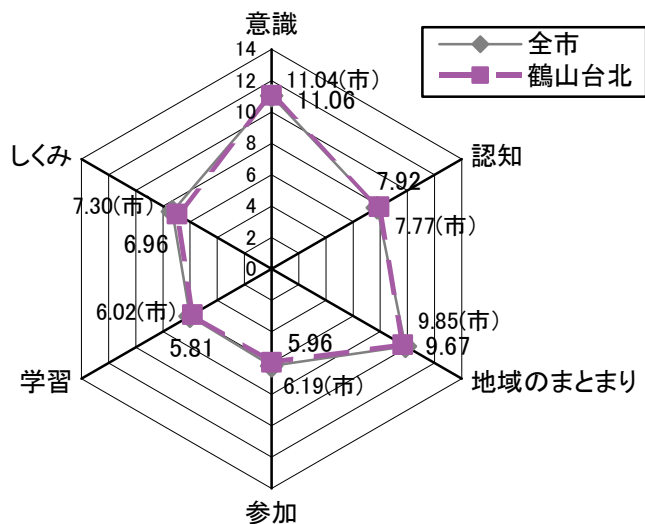
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○あいさつ運動	各個人	ひとりでも	今から
○役員とボランティアとの信頼関係	役員	ボランティア	できるだけ早く

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

鶴山台北校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他の分野よりも低くなっています。

また、「意識」と「認知」は和泉市全体と同程度あるいは若干高く、それ以外は若干低くなっています。



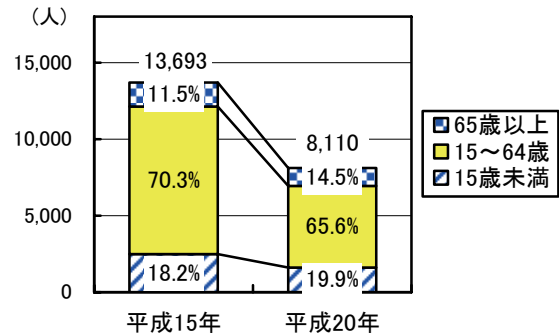
17 緑ヶ丘校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は8,110人で、市内で12番目で、平成18年度から青葉台・はつが野地区が青葉はつが野小学校区に分離したため、5,583人の減少となっています。

15歳未満人口率は19.9%、一方、65歳以上人口率は14.5%となっています。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	6		4	—	90	13	53
平成20年度	6	67	2	2	53	10	49

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは2か所で結成されており、手芸、絵手紙、健康体操、視覚障がい者のフルーツ演奏、ミニ運動会、クリスマス会、カルタなどを行っています。また、子育てサロンも2ヶ所で結成されており、絵本読み、遠足、花見、鯉のぼりづくり、水遊び、ミニ運動会、芋掘り、クリスマス会、正月遊び、節分、ひなまつりなどを行っています。 ●他にも、絵手紙訪問や高齢者の家で困っていることの手伝い、夏祭りや春の集いといった世代間交流を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンについては、活動内容のマンネリ化や、参加者の減少、男性の参加者が少ない、本当に来てほしい人の参加が少ない、参加者の高齢化、資金不足が課題としてあげられます。また、サロンの参加者を増やすためにはボランティアが不足しているが、ボランティアも高齢化しているという問題もあります。 ●他にも、アルコール依存症の家族の支援や認知症の人の支援、親の年金をあてにして働かない人への働きかけなどの課題があります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●緑ヶ丘小地域ネットワーク委員会を継続して開催しており、校区ボランティアが共通認識のもとで活動できています。また、地域全体がグループ活動や団体の存在を認識するようになりました。 ●他にも、桃山学院大学の学生の地域への支援がある、春のつどいを10年間継続して開催してきた、定例のボランティア会議を開催している、子育てサロンの開催回数が増えたといった点もあげられます。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 自治会未加入の問題（マンション）
- 既存組織（子ども会、老人会、女性消防クラブ）などとの横の連携・連絡
- フォーマル・インフォーマルが協力した地域づくり
- ボランティアの不足（若返り）



■ テーマ（目標）

声かけ合って みんなが安心・助け合い



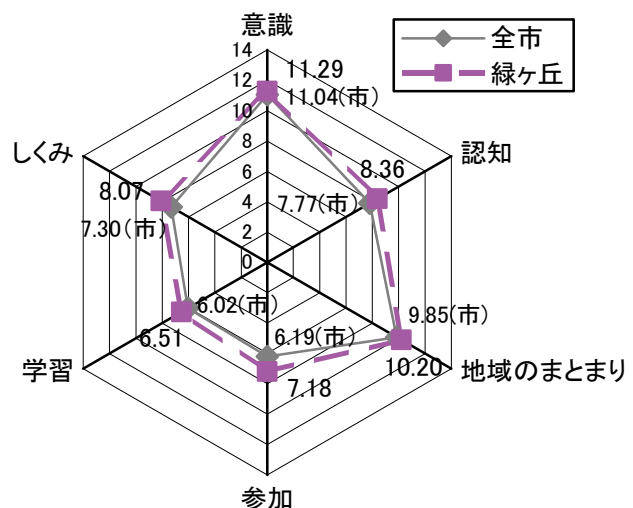
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○自治会への加入	社会福祉協議会と 自治会会長		明日から
○認知症・アルコール依存症の方や 障がい者との共生	民生委員・児童委員	専門職と地域 ボランティア 自治会・子ども会・老人会	問題を把握した とき
○地域に託老所の整備	民生委員・児童委員		
○現役世代・男性の自治会・ボラン ティアへの参加推進、いきいきサ ロンへの参加者の開拓	自治会	校区ボラン ティア	できるだけ早く

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

緑ヶ丘校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他分野よりも低くなっているものの、「参加」は和泉市全体よりも1ポイント程度高くなっています。

また、どの分野も和泉市全体よりも高くなっています。



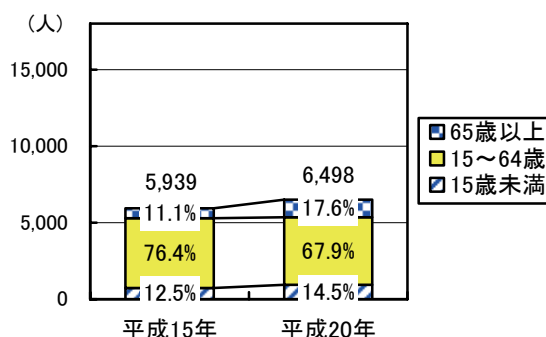
18 光明台南校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は6,498人で、市内で16番目で、この5年間で559人の増加となっています。

15歳未満人口率は14.5%で、平成15年より2.0ポイント上昇し、一方、65歳以上人口率は17.6%で、平成15年より6.5ポイントも上昇し、高齢化の進行が著しい状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数 (人)	いきいきサロン (か所)	子育てサロン (か所)	ふれあい配食サービス (人)	おせち料理配食サービス (人)	誕生日プレゼント訪問 (人)
平成15年度	3		3	—	26	5	23
平成20年度	3	62	3	—	17	6	31

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは3か所で結成されており、小物づくり、DVD鑑賞、健康体操、歴史探訪、講演会、ウォーキング、フォークダンスクラブ、花見、年忘れ会、カレーパーティなどを行っています。 ●小学校の体育祭に参加して世代間交流を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉協議会の仕事を知らない人が多い、行事に参加していない人をどうやって引き出すか、男性の出席率をどうすれば高めることができるかといった問題があります。 ●坂道が多く外に出にくい、あるいは、子育てについての課題もあります。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者とボランティアと一緒に楽しんでおり、サロンが楽しいと評判になっています。また、ボランティアの人も多く、参加者も増えてきています。さらに、参加者からお礼の言葉を聞くことも多く、ボランティアも元気に活動しています。 ●毎年8月には子ども用の企画を考えており、参加者が増えています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 住民同士のコミュニケーション
- 高齢社会をみすえた地域づくり
- 子育ての支援



■ テーマ (目標)

助け合う 住みよい街づくり



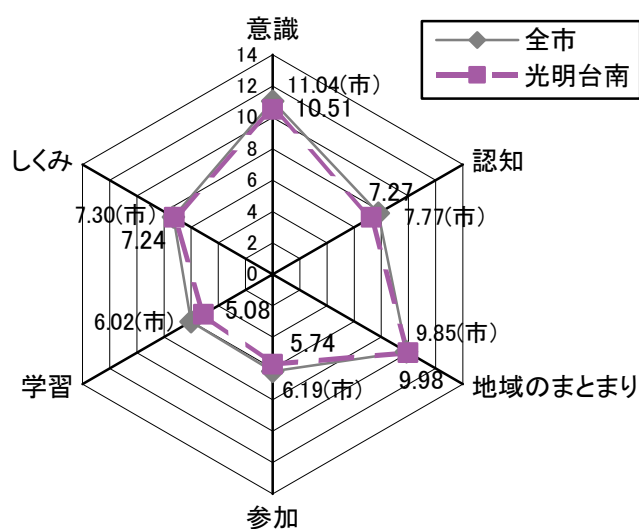
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○自治会単位の活動への移行(行事への参加呼びかけの範囲を分け、身近なものにする)	校区社会福祉協議会	各種団体	未定
○自治会の役割分担	//	//	
○高齢者対策の充実(安否確認・独居高齢者への声かけ・見回り)	//		

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

光明台南校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低くなっています。

また、「地域のまとまり」は和泉市全体よりも若干高く、その他の分野は和泉市全体よりも低くなっています。特に「学習」は1ポイント近く低くなっています。



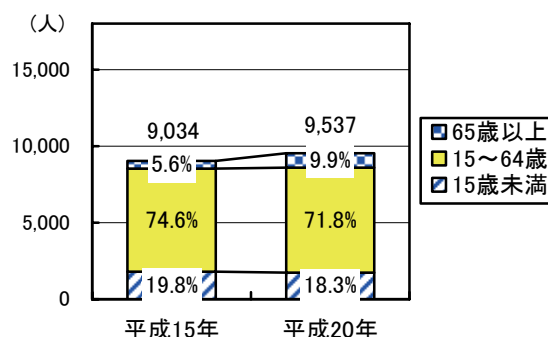
19 光明台北校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は9,537人で、市内で7番目に多く、この5年間で503人の増加となっています。

15歳未満人口率は18.3%で、平成15年より1.5ポイント低下し、一方、65歳以上人口率は9.9%で、平成15年より4.3ポイントも上昇し、高齢化が進行していますが、まだまだ15歳未満人口率が高い状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし 高齢者数 (人)	いきいき サロン (か所)	子育て サロン (か所)	ふれあい配 食サービス (人)	おせち料理 配食サービス (人)	誕生日プレ ゼント訪問 (人)
平成15年度	15		3	—	15	11	23
平成20年度	16	52	4	—	10	20	27

■活動状況と課題

現在の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは4か所で結成されており、茶話会、ゲーム、健康体操、映画鑑賞、花見、クリスマス会、忘年会、新年会、野外活動、日帰り旅行などを行っています。 ●世代間交流事業や交流の輪活動、子ども登下校見守り隊の活動を行っています。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンについては、参加者の伸び悩みや、体を動かしてできることなど、企画を充実することが課題となっています。 ●世代間交流では、高齢者の参加が少なく、子ども会との連携や男性ボランティアがいつも同じなので新しい人の参加があげられます。 ●他にも、見守り隊の増員やふれあい配食のPRが不足していることも問題です。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●催し物の企画を考えなくても利用者から申し出てくれるようになった点や、住民意識が向上した点、住民のつながりが強くなった点、地域の事情がわかるようになった点などがあげられます。 ●子どもとの交流が広がった点や、子どもから声をかけてくれるようになった点、保護者から喜ばれる点などもあります。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 住民相互のスポーツ振興
- 各種作品の制作・発表



■ テーマ (目標)

交流の場の充実 (住民交流推進委員会の発展)



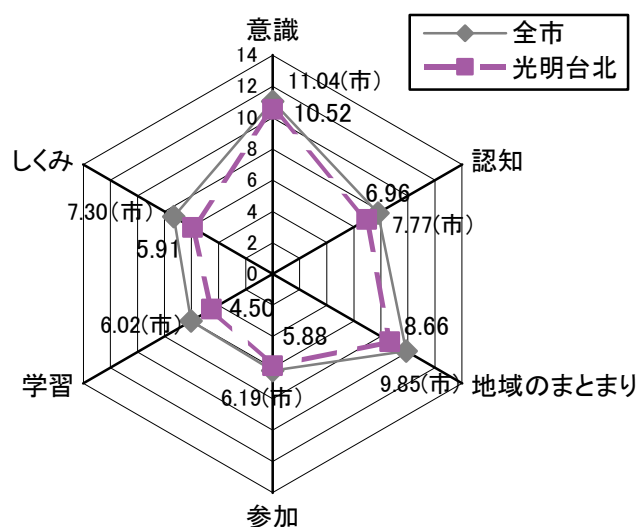
■アプローチ (具体的に取り組みたいこと) → そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○各種スポーツの指導者の発見	住民交流推進委員会	自治会	平成20年12月より
○個別サークルの立ち上げ・育成	〃	〃	〃
○制作発表の機会・場所をつくる	〃	〃	平成21年4月より
○作品を公募する(他薦・自薦)	〃	〃	〃

(4) 地域福祉力 (アンケート調査結果より)

光明台北校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低くなっています。

また、どの分野も和泉市全体よりも低く、特に「学習」や「しくみ」「地域のまとまり」は1ポイント以上も低くなっています。



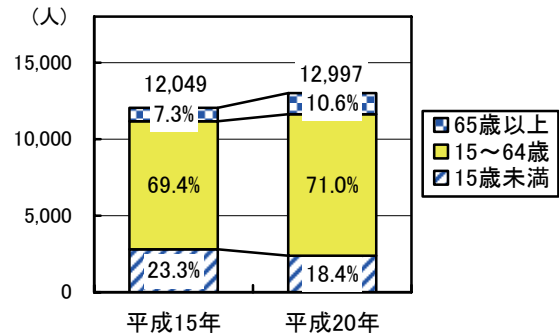
20 いぶき野校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は12,997人で、市内で4番目に多く、この5年間で948人の増加となっています。

15歳未満人口率は18.4%で、平成15年より4.9ポイントも低下し、一方、65歳以上人口率は10.6%で、平成15年より3.3ポイント上昇し、高齢化が進んでいますが、まだまだ15歳未満人口率の方が高い状況です。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数(人)	いきいきサロン(か所)	子育てサロン(か所)	ふれあい配食サービス(人)	おせち料理配食サービス(人)	誕生日プレゼント訪問(人)
平成15年度	8		6	—	2	1	22
平成20年度	11	69	5	3	4	7	27

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●いきいきサロンは5か所で結成されており、茶話会、軽体操、ビデオ鑑賞、ゲーム、絵手紙、環境美化活動、ウォーキング、グランドゴルフ、カラオケ、花見、盆踊り、忘年会、新年会、ひなまつり、バスツアー、日帰り旅行などを行っています。また、子育てサロンは3か所で結成されており、かぶと・鯉のぼりづくり、小麦粉粘土遊び、リズム遊び、泥んこ遊び、バーベキュー、芋掘り、クリスマス会、七夕まつり、お正月遊び、節分遊び、ひなまつりなどを行っています。 ●他にも、盆踊りや運動会、小学校の登校時見守り、見回り防犯、公園・公道の清掃などを行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者の固定化や各活動の横の広がり（連携）がなく、サロンの参加者が少ないことも問題となっています。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ●人間関係が5年前より改善され、役員が一生懸命なので活動が多彩で、将来を支える層が厚く、期待できます。 ●また、まちがきれい、運動会の参加者も多くなっています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 活動のPR不足（特に若い世代への）⇒参加者の固定化を招いている
- 各活動の横のつながり・連携がない
- いきいきサロン活動への参加者が少ない



■ テーマ（目標）

**温かさと思いやりにあふれ、
知・情・意のバランスによる活力あるまちづくり**



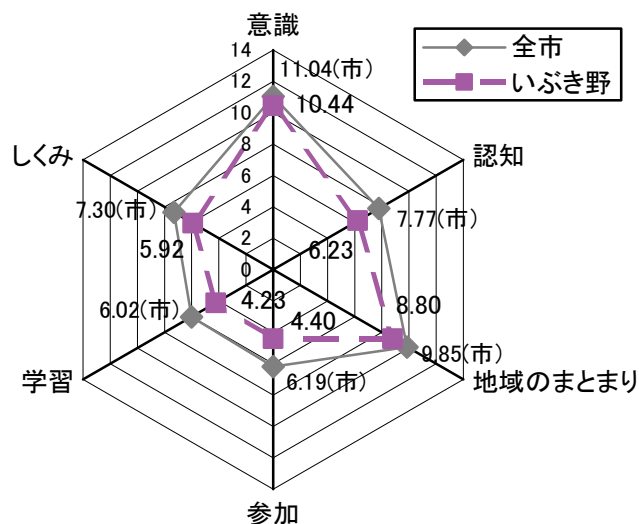
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから （優先順位）
○活動の定着と連携の一層の強化	自治会	地域住民	平成21年度1
○将来をみすえ、きめ細かい啓発活動の推進	各種団体	//	平成21年度2
○成果の評価・確認システムづくり	//	//	平成21年度3

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

いぶき野校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が低くなっています。

また、どの分野も和泉市全体よりも低く、特に「意識」以外は1ポイント以上も低くなっています。



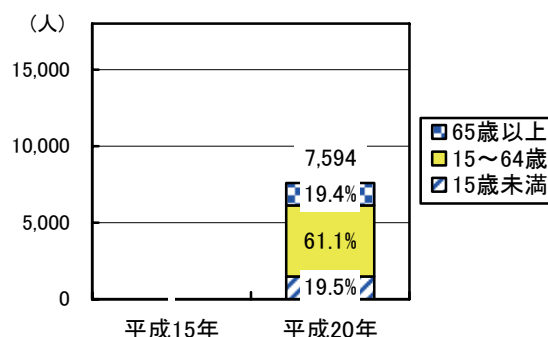
21 青葉はつが野校区

(1) 校区の概要

■人口の推移

平成20年5月1日現在の人口は7,594人で、市内で13番目で、平成18年度から緑ヶ丘校区から分離しました。

15歳未満人口率は19.5%、一方、65歳以上人口率も19.4%で、両者が同程度となっています。



(2) 福祉活動の状況と課題

■活動の推移

年度	町会数	ひとり暮らし高齢者数(人)	いきいきサロン(か所)	子育てサロン(か所)	ふれあい配食サービス(人)	おせち料理配食サービス(人)	誕生日プレゼント訪問(人)
平成15年度							
平成20年度	5	64	2	2	39	7	71

■活動状況と課題

現在の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンは2か所で結成されており、健康体操、体力測定、ゲーム、折り紙、コーラス、子ども会との交流、桃山学院大学との交流、グランドゴルフ、マンドリン演奏、カラオケ、花見、七夕まつり、クリスマス会、カルタ大会などを行っています。また、子育てサロンは2か所で結成されており、かぶとづくり、散歩、健康講座、紙芝居、七夕まつり、水遊び、運動会、バルーン遊び、クリスマス会、たこあげ、ひなまつりなどを行っています。 ● 子育て支援として、0～1歳児の親の交流会も実施しています。 ● 他にも他市町社会福祉協議会との交流会や校区パトロール、夏祭りや校区全体での祭りを開催しています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンへの参加が少ない点、特に男性の参加が少ない点や、地域によってボランティアへの参加者がほしいといった課題があります。 ● 近所の人との人間関係をよくするようにつとめる、地域ボランティア活動の仕方についての講習会の開催、ひとり暮らし高齢者への声かけ活動の充実といったことがあげられます。
誇れる点	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンについては、男性ボランティアが多い点、ボランティアの欠席者が少ない点、車による送迎や歩いての送迎がある点があげられます。 ● さまざまな行事により世代間交流ができており、手作りによる玉入れや輪投げの道具づくりもを行っています。

(3) 今後の取り組み

■地域の主要課題

- 地域づくり（世代間交流）
- いきいきサロンの充実
- 見守り（子どもから高齢者まで）活動の充実
- ボランティアの意識啓発・向上



■ テーマ（目標）

明るく優しい街づくり！！



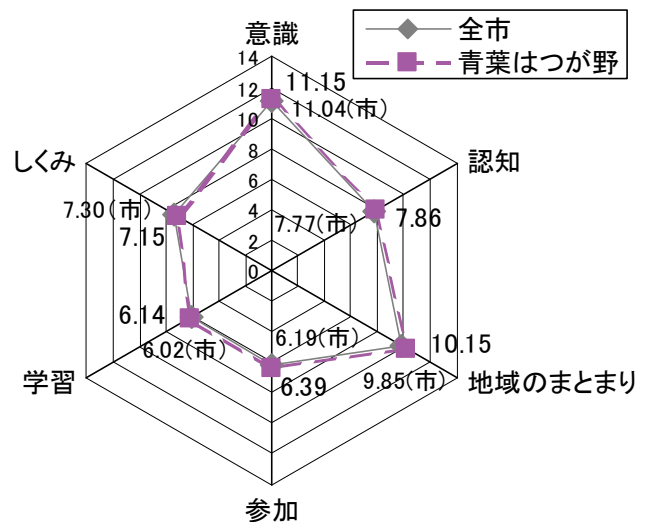
■アプローチ（具体的に取り組みたいこと）→そのためには

項 目	誰が中心に	誰と一緒に	いつから (優先順位)
○校区の相談窓口づくり	校区会	自治会、民生委員・児童委員、ボランティア	
○いきいきサロン参加者の増員(送迎)	自治会福祉部	民生委員・児童委員、ボランティア	
○育児相談・声かけ・配食活動の充実	ボランティア	社会福祉協議会 ボランティア	
○社会福祉協議会の研修会への参加・行事への参加	ボランティア	ボランティア	

(4) 地域福祉力（アンケート調査結果より）

青葉はつが野校区の地域力評価は、和泉市全体と同様に「参加」や「学習」の分野の評価が他分野よりも低くなっています。

また、「しくみ」以外の分野は和泉市全体よりも若干高くなっていますが、「しくみ」も含めて大差ありません。



資料編 市民の福祉意識と計画の策定経過

1 市民の福祉意識～アンケート調査結果より～

(1) 調査の概要

調査の目的は

- 「和泉市地域福祉計画」及び「和泉市地域福祉活動計画」が共に平成21年3月で計画期間を終了することから、第2次計画策定のための基礎資料とすることを目的に市民調査を実施しました。
- 地域福祉への関心を高め、実践につなげ、地域福祉力を高めるためには、一般市民の意識を高め底辺を拡大することとともに、福祉関係者に対する効果的な施策・事業を実施し、力を高めていくことの両面が必要であるとの認識から、福祉関係者の意識や行動などを把握するための調査を行いました。

調査の方法は

項目	内容	
	一般市民調査	福祉関係者調査
調査地域	和泉市全域	
調査対象	和泉市在住の18歳以上から80歳までの男女	和泉市在住の18歳以上から80歳までの福祉関係者個人及び、市内に事業所のある福祉事業者や福祉関係施設従事者
調査数	1,000件	各小学校区をおおむね100件とし、合計2,031件
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録から、市内の小学校区別人口分布を考慮し、無作為抽出	民生委員・児童委員、町会長、いきいきサロンや子育てサロン、高齢者関係のサービス事業所、CSW、保育所・幼稚園、障がい者相談窓口等の従事者
調査方法	郵送による配布・回収	
調査期間	平成19年11月10日（土） ～11月22日（木）	平成19年12月10日（月） ～12月25日（火）

■一般市民調査回収結果

配布数	未着数	実質配布数	回収数	無効票	有効回収数	有効回収率
1,000件	7件	993件	367件	0件	367件	37.0% (前回：53.4%)

■福祉関係者調査回収結果

対象	配布数	回収数	無効票	有効回収数	有効回収率
全体	2,031件	1,174件	3件	1,171件	57.7%
個人	1,864件	1,085件	3件	1,082件	58.0%
事業所	167件	89件	—	89件	53.3%

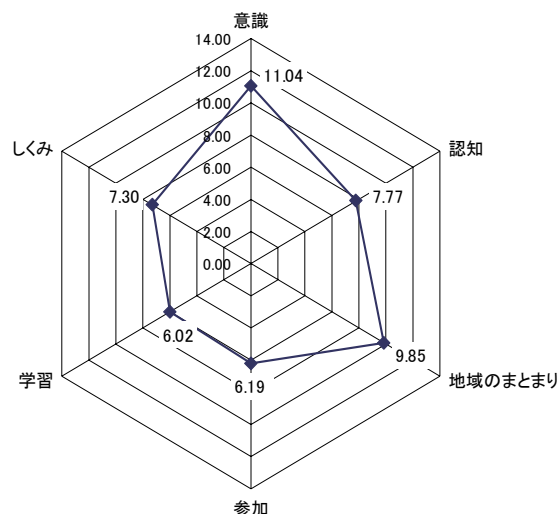
(2) 調査結果より

① 地域福祉力を高めるためには参加や学習機会の充実が必要

福祉関係者調査では、福祉関係者からみた和泉市の地域福祉力を把握するため、6つの分野軸に調査項目を集約し、選択肢を点数化して分野ごとに集計しています。地域福祉力とは、地域のさまざまな生活課題を解決するため、地域にかかわるさまざまな人や団体、機関等の個々のあるいは協働の取り組みであったり、かかわり方であったり、あるいは資源などの総称です。それを形として評価できないかということで、「意識」「参加」「認知」「学習」「まと

まり」「しくみ」の6つの分野で質問項目をそれぞれ5項目設定しました。この結果、和泉市全体の地域福祉力評価では、「意識」や「地域のまとまり」などは評価が高いものの、「参加」や「学習」では評価が低くなっています。

■和泉市全体の地域福祉力評価



■地域福祉力を測る軸と項目

軸と軸の意味		質問項目
意識— 参加軸	意識	地域での生活課題（福祉ニーズ）への気づき、関心を高めることが必要であり、関心をもつ人、意識のある人の量的・質的な度合いなど
	参加	関心を生活課題の解決、あるいは生活課題の発生の予防等に向けて具体的な行動に移すことが必要であり、福祉活動等への参加頻度など
認知— 学習軸	認知	地域の福祉課題に対する関心
		相互による地域の福祉課題解決の取り組みの必要性
		必要性についての意識の変化
		近所の人などから手助けしてもらうこと
学習	学習	日頃の人権意識
		小地域ネットワーク活動への参加
		小地域ネットワーク活動以外のボランティア等福祉活動への参加
		地域での福祉活動参加への働きかけ
	認知	福祉関係者や関係機関との連携
		福祉関係者や関係機関との連携状況の変化
		権利擁護のしくみの認知状況
		民生委員・児童委員の役割の認知状況
	学習	コミュニティソーシャルワーカーの認知状況
		福祉情報の入手状況
		福祉情報の入手状況の意識の変化
		研修会やボランティア講座等への参加
		研修会やボランティア講座等への参加についての变化
		地域の福祉課題を話し合う場への参加
		他の活動者等との交流や福祉施設の見学などへの参加
		学習機会を生かす機会の状況

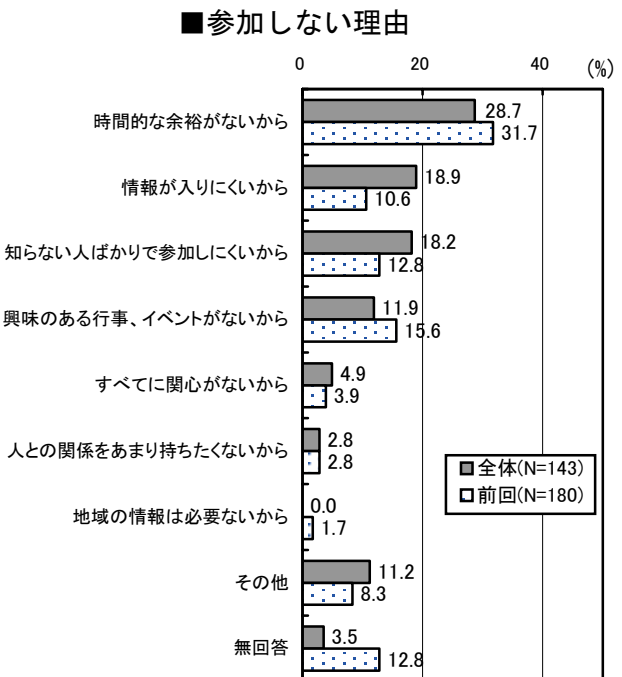
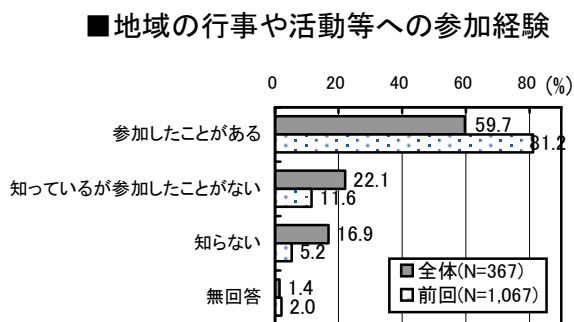
軸と軸の意味		質問項目
地域の まとまり —し くみ軸	まとまり	近所づきあいの程度
		「自分のまち」への愛着度
		地域活動や行事の活発度
		地域活動や行事の活発度の変化
		住民相互のまとまり度
	しくみ	住民の福祉活動をより活発にするためには、活動を支えるさまざまなしくみが必要で、行政と住民との協働、住民同士の協力関係やまとまりを調整する力など
		行政と住民のパートナーシップ
		行政と住民のパートナーシップについての変化
		地域福祉計画等の目標に対する親近感
		社協の活動による住民同士の協力関係度
		社会福祉施設や企業等の社会貢献等の状況

評価のための点数化については、各質問項目の選択肢がレベルを聞いているので、肯定度が最も高い選択肢に3点、次が2点、1点、0点として加重平均を算出。また、まとまりの「地域活動や行事の活発度の変化」のような5年前と比べて聞いている質問は、3択で肯定度が高いものを2点、逆の考えが0点、特に変化はないが1点として加重平均を算出。

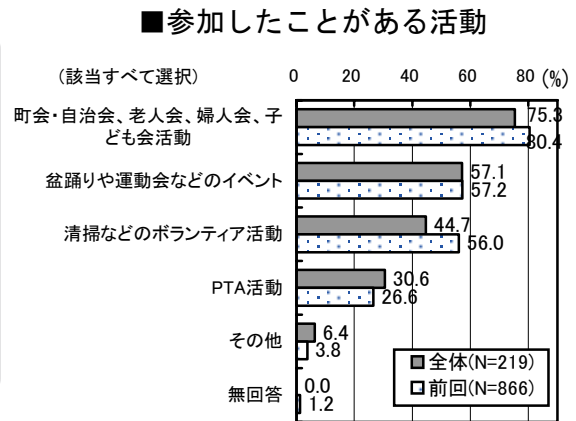
② 市民の地域の行事や活動等への参加はおよそ60%

地域の行事や活動等への参加経験者は59.7%で半数を超えています。しかし、前回調査よりも21.5ポイントも減少し、「町会・自治会、老人会、婦人会、子ども会活動」(5.1ポイント減)や「清掃などのボランティア活動」(11.3ポイント減)で顕著です。

参加しない理由は、「時間的な余裕がないから」が最も多くを占めていますが、前回調査より「情報が入りにくいから」(8.3ポイント増)や「知らない人ばかりで参加しにくいから」(5.4ポイント増)をあげる割合が増えています。

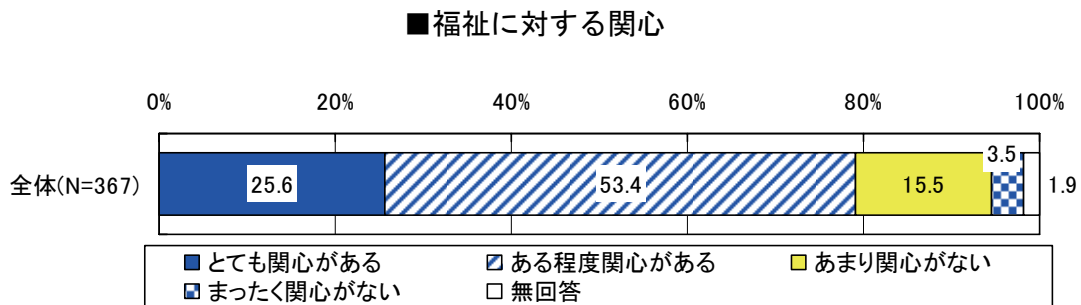


- 地域の行事や活動の課題
- 担い手の拡大
 - 青年層の企画への参加
 - 親子で参加するボランティア活動
 - 各世代が気軽に楽しく参加できる活動
 - 地域行事や活動の周知
 - 活動拠点の場の確保



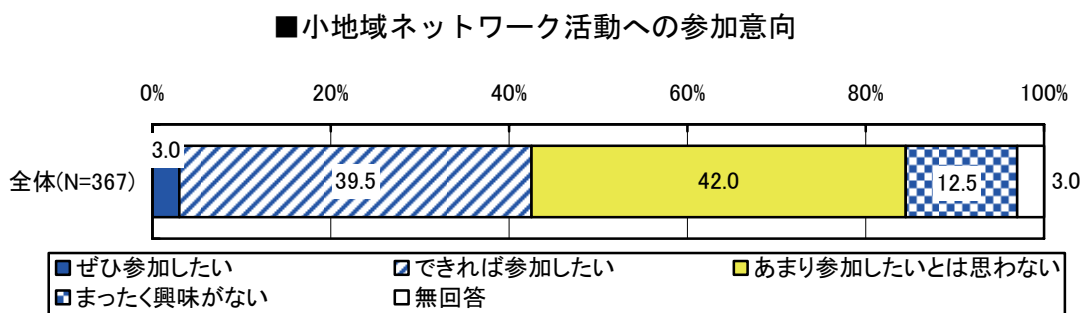
③ 市民で福祉に対する関心を持つ人はおよそ80%

福祉に対して「とても関心がある」が25.6%、「ある程度関心がある」が53.4%で、両者を合わせた『関心がある』人は79.0%となっています。



④ 「小地域ネットワーク活動」へ参加意向を持つ人はおよそ40%

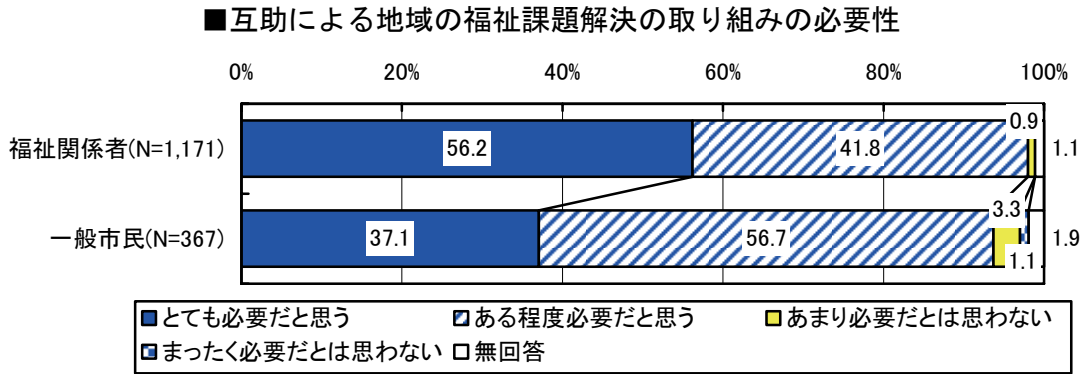
「ぜひ参加したい」が3.0%、「できれば参加したい」が39.5%で、両者を合わせた『参加したい』人は42.5%となっています。



- 福祉への関心に関する課題
- 生涯を通じた福祉問題（身近な福祉課題等）への関心の喚起
 - 福祉教育の推進（人権教育や生涯学習との連携）
 - 共生社会、等生社会の理解啓発の推進

⑤ 住民相互の自主的な支え合いや助け合いの必要性は90%を超える

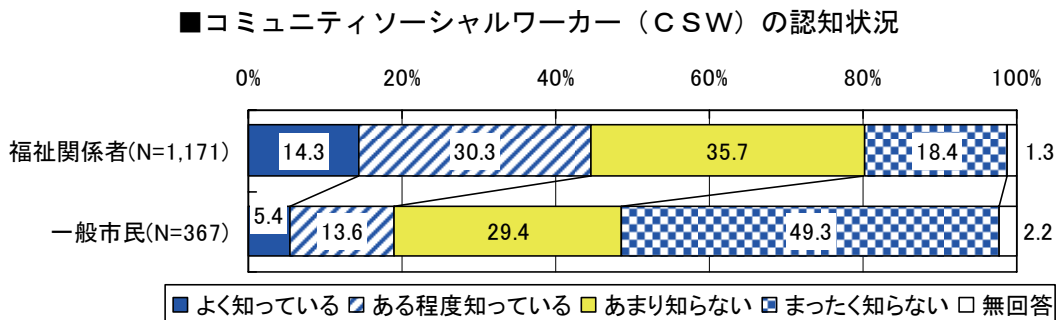
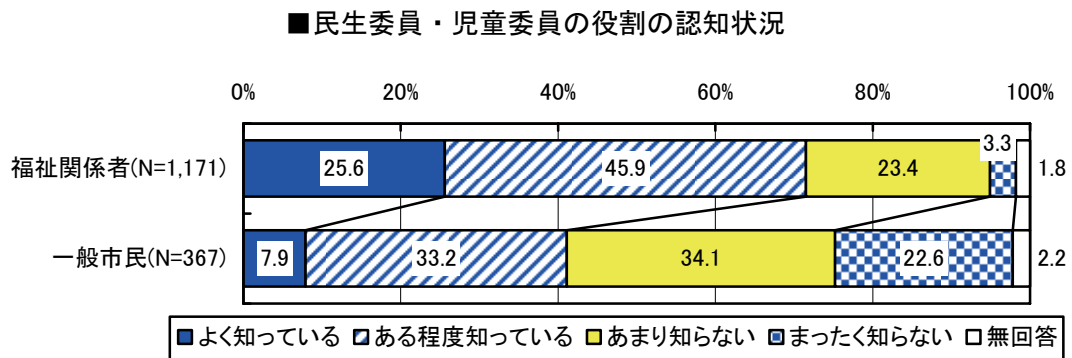
「とても必要だと思う」や「ある程度必要だと思う」を合わせた『必要だと思う』は、両調査共に90%を超えて必要性の意識は高いものがあります。そのうち、「とても必要だと思う」は、福祉関係者調査が一般市民調査に比べて19.1ポイントも高くなっています。



⑥ コミュニティソーシャルワーカーを知っている市民はおよそ20%

民生委員・児童委員の役割について「よく知っている」や「ある程度知っている」を合わせた『知っている』は、福祉関係者調査ではおよそ70%、一般市民調査では40%となっています。

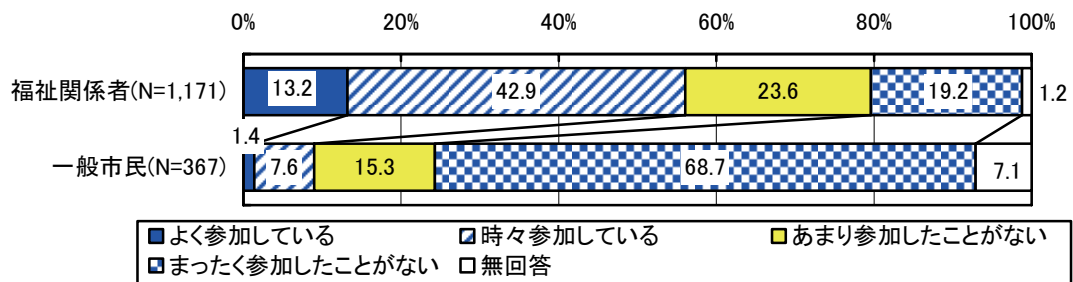
コミュニティソーシャルワーカーについては、『知っている』は、福祉関係者調査ではおよそ45%、一般市民調査ではおよそ20%となっています。



⑦ 福祉に関する研修会やボランティア講座への市民の参加率は低い

「よく参加している」や「時々参加している」を合わせた『参加している』は、福祉関係者調査では60%弱で、一般市民調査のおよそ10%に比べて高い参加率となっています。

■福祉に関する研修会やボランティア講座などへの参加状況



■研修会や講座等に関する課題

- 誰もが気軽に参加できる機会の提供や充実を図る
- 研修会や懇談会等情報の提供や懇談会運営等の工夫

2 計画の策定経過

■第2次和泉市地域福祉活動計画策定の経過

年月日	内容
平成19年11月	市民アンケート調査の実施
平成19年12月	福祉関係者アンケート調査の実施
平成20年2月22日	平成19年度 地域福祉活動シンポジウム
平成20年7月31日	第1回和泉市地域福祉活動計画策定委員会
平成20年9月～11月	校区社協懇談会（ワークショップ） 全21校区各2回開催
平成20年9月・12月	福祉関係者懇談会（ワークショップ） 全2回開催
平成20年12月19日	第2回和泉市地域福祉活動計画策定委員会
平成21年2月10日	第3回和泉市地域福祉活動計画策定委員会
平成21年2月10日	平成20年度 地域福祉活動シンポジウム

■校区社会福祉協議会懇談会（ワークショップ）の開催状況

開催日時	対象小学校区	開催場所	
第 一 回	平成20年 9月12日	池上・幸・信太・鶴山台南・鶴山台北	人権文化センター
	9月17日	和気・黒鳥・芦部・伯太	和泉市コミュニティセンター
	9月24日	緑ヶ丘・光明台北・光明台南・青葉はつが野	和泉シティプラザ
	9月26日	南松尾・横山・南横山	南部リージョンセンター
	10月1日	国府	和泉市コミュニティセンター
	10月16日	北池田・北松尾・南池田・いぶき野	和泉シティプラザ
第 二 回	10月27日	国府・和気・黒鳥・芦部・伯太	和泉市コミュニティセンター
	10月31日	南松尾・横山・南横山	南部リージョンセンター
	11月4日	池上・幸・信太・鶴山台南・鶴山台北	人権文化センター
	11月5日	北池田・北松尾・南池田・いぶき野	和泉シティプラザ
	11月12日	緑ヶ丘・光明台北・光明台南・青葉はつが野	和泉シティプラザ

和泉市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

（目的及び設置）

第1条 地域住民が主体となって取り組んでいく地域福祉活動の具体的な内容を定める計画としての和泉市地域福祉活動計画（以下「計画」という。）の策定を、地域住民と協働して推進するため、和泉市地域福祉活動計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 策定委員会は、和泉市地域福祉活動計画の策定に関し、必要な調査・研究・審議を行う。

2 策定委員会は、前項の調査・研究・審議のほか、計画の案を策定するものとする。

（組織）

第3条 策定委員会の委員は、次に掲げる者で組織し、会長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 公募市民
- (3) 社会福祉を目的とする団体及び事業者の代表
- (4) 保健、医療又は福祉施設等の関係者
- (5) 会長が必要と認めた者

2 委員の任期は当該計画策定の終了までとする。

3 策定委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

4 委員長は、策定委員会を代表し、会務を統括する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（会議）

第4条 策定委員会の会議は委員長が招集し、会議の議長となる。

2 策定委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴き、又は資料の提供を求めることができる。

4 最初に招集される委員会は、第1項の規定にかかわらず会長が招集する。

（事務局）

第5条 策定委員会の事務局は、社会福祉法人和泉市社会福祉協議会に置く。

（その他）

第6条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が定める。

附則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

和泉市地域福祉活動計画策定委員名簿

(敬称略)

選出区分	団体・機関名及び役職名	氏 名	
学識経験者	大阪府立大学人間社会学部 教授	関 川 芳 孝	◎
	大阪体育大学健康福祉学部 教授	大 谷 悟	○
公募市民		小 野 友 子	
		田 中 靖 久	
社会福祉を 目的とする 団体及び事 業者の代表	和泉市社会福祉協議会 会長	辻 村 一 男	
	和泉市町会連合会 会長	辻 中 脩	
	和泉市民生委員児童委員協議会 会長	北 坂 宏 子	
	和泉市連合婦人会 書記	飯 塚 ヤス子	
	和泉市老人クラブ連合会 会長	定 義 夫	
	和泉市障害者団体連絡会 会長	浦 部 祐 作	
	和泉市母子福祉会 会長	野 田 ア ヤ	
	いずみボランティア市民プラザアイ・ あいロビー運営委員会 福祉部会長	大 隅 皓 子	
保健、医療、 または福祉 施 設 等 の 関 係 者	和泉市医師会 副会長	山 本 益 也	
	大阪府和泉保健所 所長	岡 澤 昭 子	
	大阪府岸和田子ども家庭センター 企画調整課長	日 高 儀 一	
	和泉市福祉公社 事務局長	奥 田 孝 子	

◎委員長

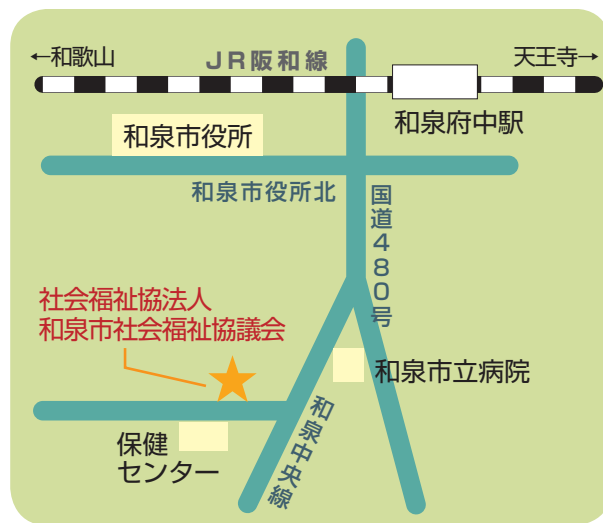
○副委員長

第2次和泉市地域福祉活動計画

～地域の福祉の力 みんなで広げる 大きな輪～

平成21年3月

発行 社会福祉法人 和泉市社会福祉協議会
〒594-0071
大阪府和泉市府中町四丁目20番4号
和泉市立総合福祉会館内
TEL：0725-43-7514
FAX：0725-41-3154



社会福祉法人
和泉市社会福祉協議会

〒594-0071 和泉市府中町4丁目20番4号
(和泉市立総合福祉会館内)

Tel (0725)43-7514 FAX (0725)41-3154

Eメール: izumisya@abelia.ocn.ne.jp

<http://izumi-syakyo.net/>

平成16年度



平成17年度



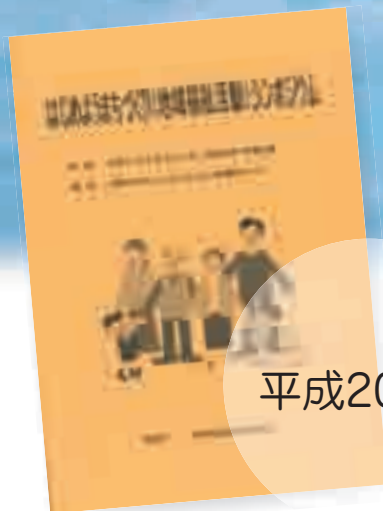
平成18年度



平成19年度



平成20年度



この印刷物は古紙パルプ
配合の再生紙と大豆油
インキで印刷しています。

具体的な取り組みについては、本文
20ページからご参照ください。